

株式会社ワイ・エス・エス

IOWebDOC

IOBDOC マニュアル

(機能仕様書)

[文書の要約をここに入力してください。要約は一般に、文書の内容を短くまとめたものです。文書の要約をここに入力してください。要約は一般に、文書の内容を短くまとめたものです。]

目次

1 章. 概要	1
1.1. IOBDOC について.....	1
1.2. 起動	1
1.3. 初期画面・各部の名称.....	1
1.4. 終了	4
2 章. メニュー説明.....	5
2.1. ファイル(F).....	5
2.2. 編集(E).....	5
2.3. 表示(V).....	6
2.4. 設定(S)	7
2.5. 操作(O).....	8
2.6. ヘルプ(H).....	8
2.7. メニュー操作補足	8
3 章. 右メニュー説明	9
3.1. 右メニューについて.....	9
4 章. ブロック操作説明	14
4.1. ブロック操作モード.....	14
4.2. ブロック操作.....	14
4.3. ブロック操作時の注意	17
5 章. 項目操作説明.....	18
5.1. 項目操作モード	18
5.2. 項目操作.....	18
5.3. 項目操作時の注意	21
6 章. データエリア操作説明	22
6.1. データエリア操作モード	22
6.2. エリアの変更.....	22
7 章. 画面一覧.....	23
7.1. 一覧形式画面の基本操作	23
7.2. 『新規作成』画面	25
7.3. 『プレビュー』画面.....	27
7.4. 『表示設定』画面	30
7.5. 『グリッド設定』画面.....	31
7.6. 『用紙設定』画面	32

7.7. 『データ設定』画面.....	33
7.8. 『データ加工設定』画面.....	35
7.9. 『計算式』画面.....	38
7.10. 『演算』画面.....	40
7.11. 『ブ레이크条件』画面.....	42
7.12. 『外部変数』画面.....	45
7.13. 『デフォルトフォントサイズ』画面.....	47
7.14. 『整合性テスト結果』画面.....	48
7.15. 『バージョン情報』画面.....	49
7.16. 『項目属性の一覧編集』画面.....	50
7.17. 『項目属性編集』画面.....	52
7.17.1. 『基本属性』タブ.....	52
7.17.2. 『項目罫線/背景』タブ.....	55
7.17.3. 『テキスト』タブ.....	56
7.17.4. 『文字枠』タブ.....	58
7.17.5. 『イメージ』タブ.....	59
7.17.6. 『バーコード』タブ.....	60
7.17.7. 『2次元バーコード』タブ.....	62
7.18. 『項目属性編集』画面（複数）.....	64
7.19. 『日付と時間の書式エディタ』画面.....	68
7.20. 『ブロック属性の一覧編集』画面.....	69
7.21. 『ブロック属性編集』画面.....	71
7.21.1. 『基本属性』タブ.....	71
7.21.2. 『ブロック罫線/背景』タブ.....	74
7.21.3. 『データ行罫線/背景』タブ.....	75
7.21.4. 『属性変更』タブ.....	76
7.22. 『ブロック属性編集』画面（複数）.....	78
7.23. 線の属性指定.....	80
7.24. 背景の属性指定.....	81
7.25. 丸め度合い属性の指定.....	82
8章. 変数及び関数.....	83
8.1. データ項目予約変数説明.....	83
8.2. 予約変数一覧.....	83
8.3. 関数一覧.....	84
8.3.1. 関数詳細.....	84
9章. 整合性テストエラー一覧.....	89

1章. 概要

1.1. IOBDOC について

IOBDOC ツールでは、IOBDOC のレイアウトを作成します。レイアウトは、ファイルに保存しランタイムで使用します。

このファイルの拡張子は、原則として".ddl"となります。

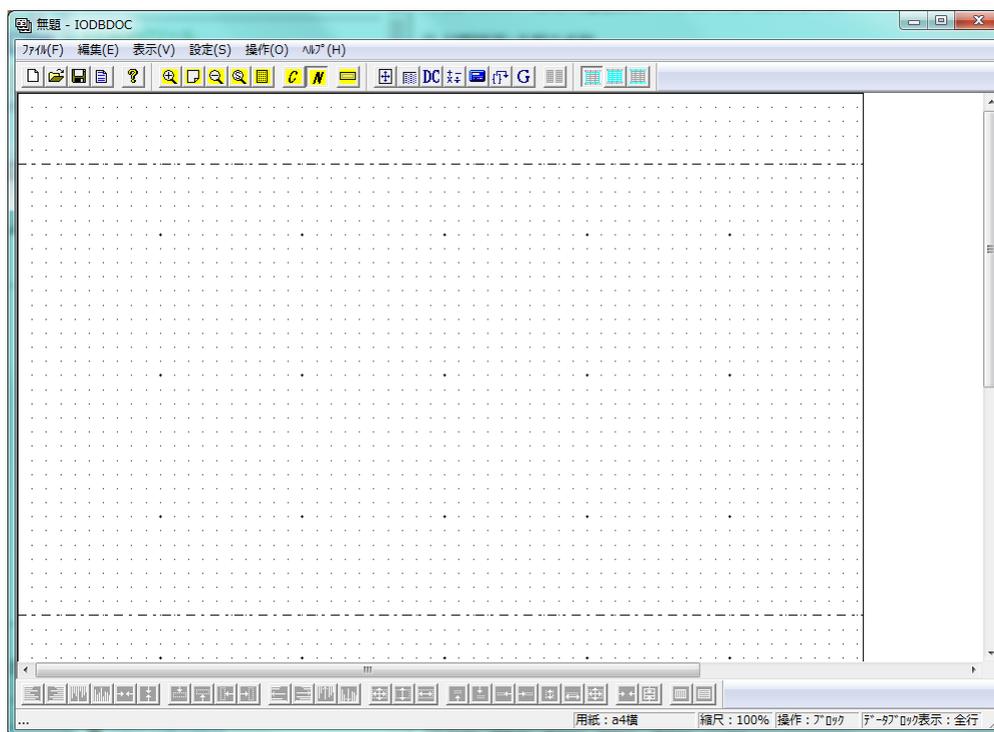
1.2. 起動

スタートメニュー→IODOC Vx.x→IOBDOC を選択して、プログラムを起動します。

(x.x はインストール時の指定及びバージョンにより異なります。)

1.3. 初期画面・各部の名称

起動すると、以下の様な初期画面が表示されます。

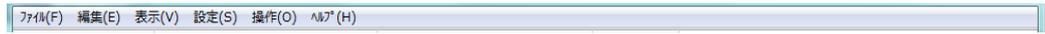


- ・ タイトルバー



画面の一番上の所をタイトルバーと呼びます。編集時のレイアウトにファイル名が付いている場合は、『無題』の部分がファイル名になります。

- ・ メニューバー



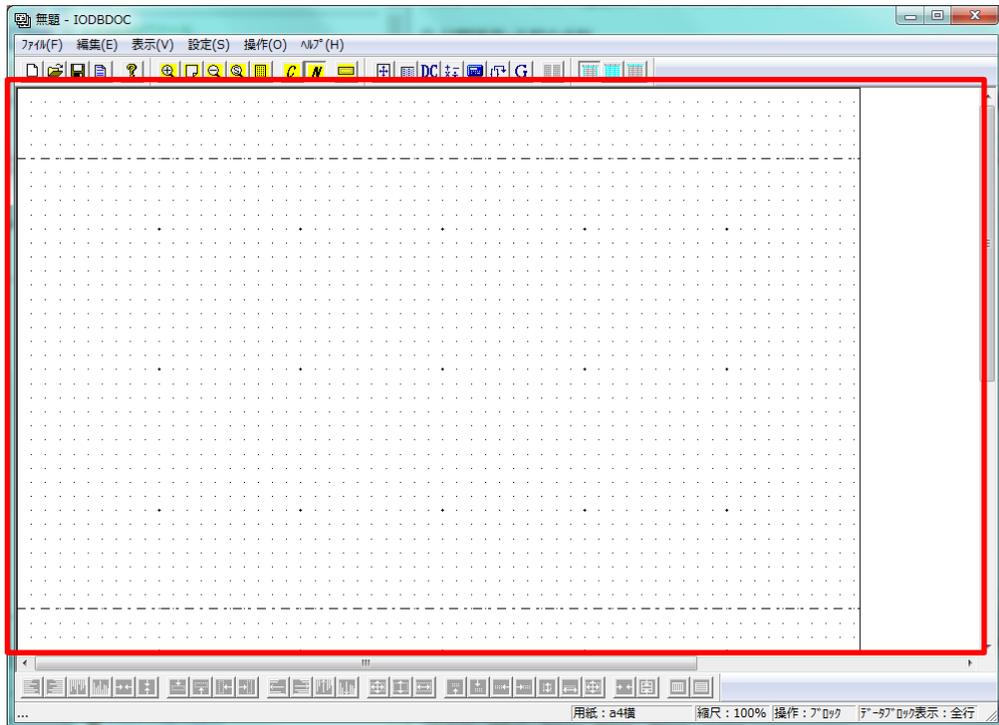
- ・ ツールバー



ツールバーは、ダブルクリックまたはツールバーの余白上で、マウスをドラッグして画面本体から切り離す事ができます。また画面の上下左右の各辺に移動すると、その場所に固定する事ができます。

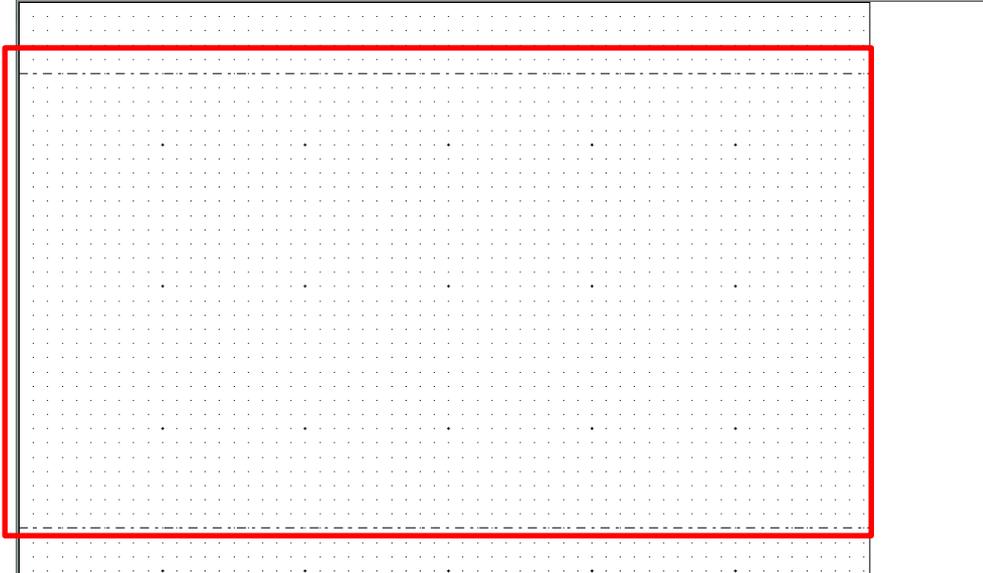
- ・ レイアウト表示部

以下の赤枠部分をレイアウト表示部と呼びます。



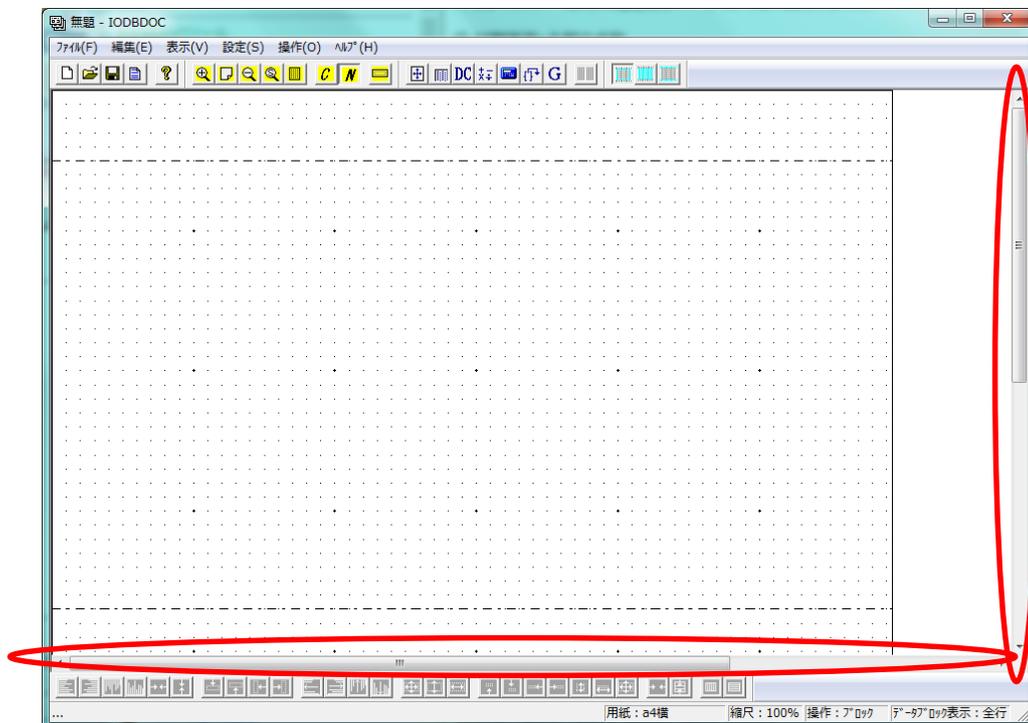
- データエリア

レイアウト表示部内の上下の点線の間をデータエリアと呼びます。



- スクロールバー

赤で囲われた部分をスクロールバーと呼びます。



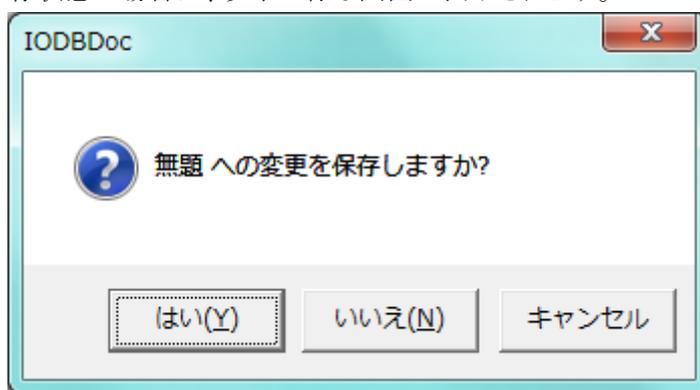
- ・ ステータスバー



一番左の境界には、操作方法示すメッセージ等が適宜表示されます。その他の境界には、用紙サイズ、表示の縮尺率、操作対象、データブロックの一行表示の有無が表示されます。

1.4. 終了

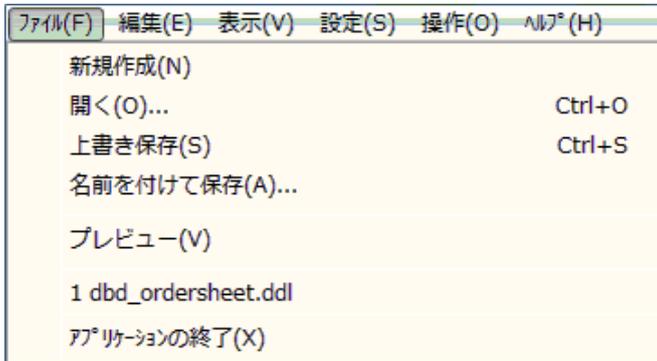
ファイルメニュー内のアプリケーションの終了を選択します。レイアウトが変更されていて未保存状態の場合は、以下の様な画面が表示されます。



はい.....	変更を保存して終了します。
いいえ.....	変更を破棄して終了します。
キャンセル.....	終了を取り消します。

2章. メニュー説明

2.1. ファイル(F)



メニュー	説明
新規作成(N)	新規にレイアウトを作成する時に使用します。詳細は、『 新規作成 』画面を参照して下さい。
開く(O)...	既存のファイルを開く時に使用します。
上書き保存(S)	既存のファイルを開いた後等、既に名前が付いているレイアウトに上書きで保存する時に使用します。
名前を付けて保存(A)...	新規作成したレイアウトまたは既存のファイルに別の名前を付けて保存する時に使用します。
プレビュー(V)	現在編集中のレイアウトにテストデータを埋め込んだイメージを参照する時に使用します。詳細は、『 プレビュー 』画面を参照して下さい。
ファイル一覧	過去に保存したり開いたりしたファイルが最大 10 件迄一覧表示されます。再度編集(開く)したい場合にはファイル名を選択します。
アプリケーションの終了(X)	IOBDOC ツールを終了する時に使用します。

2.2. 編集(E)



メニュー	説明
元に戻す(U)	直前の操作を取り消して操作前の状態に戻したい時に使用します。
全てのブロックを選択(B)	編集中のレイアウト上の全てのブロックを選択状態にしたい場合に使用します。
全ての項目を選択(I)	編集中のレイアウト上のすべての項目を選択状態にしたい場合に使用します。

2.3. 表示(V)

表示(V) 設定(S) 操作(O) ヘルプ(H)	
<input checked="" type="checkbox"/>	ツールバー(T)
<input checked="" type="checkbox"/>	ステータスバー(S)
	表示設定(V)
	表示縮小(-) Alt+-
	等倍表示(1)
	表示拡大(+) Alt+;
	グリッド設定(G)
<input checked="" type="checkbox"/>	詳細モード(M)
	ドラフトモード(D)
<input checked="" type="checkbox"/>	非表示設定枠表示(E)
	データブロックを1行で表示 Alt+1

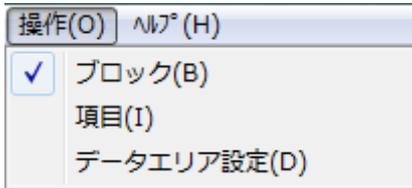
メニュー	説明
ツールバー(T)	ツールバーを表示させたい、または非表示にしたい時に使用します。ツールバーが表示状態の時は、左側にレ点が付きます。
ステータスバー(S)	ステータスバーを表示させたい、または非表示にしたい時に使用します。ステータスバーが表示状態の時は、左側にレ点が付きます。
表示設定(V)	表示に関する細かい設定をする時に使用します。詳細は、『 表示設定 』画面を参照して下さい。
表示縮小(-)	現在のレイアウトの表示状態を縮小表示したい時に使用します。現在の表示状態を、25%縮小した状態にします。
等倍表示(1)	現在のレイアウトの表示状態を、100%の状態にします。
表示拡大(+)	現在のレイアウトの表示状態を拡大表示したい時に使用します。現在の表示状態を、25%拡大した状態にします。
グリッド設定(G)	グリッドの設定(表示間隔、配置)を変更する時に使用します。詳細は、『 グリッド設定 』画面を参照して下さい。
詳細モード(M)	レイアウトの表示の内容を詳細にしたい時に使用します。表示モードには、詳細モードとドラフトモードがあり、詳細モードになっている場合は、左側にレ点が付きます。
ドラフトモード(D)	レイアウトの表示の内容を簡易表示にしたい場合に使用します。表示モードには、詳細モードとドラフトモードがあり、ドラフトモードになっている場合は、左側にレ点が付きます。
非表示設定枠表示(E)	ブロックの枠や項目の枠線等で、非表示に設定されている線も、設定自体を変更せずに表示のみさせたい場合に使用します。表示する設定になっている場合は、左側にレ点が付きます。
データブロックを1行で表示	複雑なレイアウトや項目数が多い場合等で、表示が遅い時等に使用します。通常はデータ行は、データエリアに入る分自動計算されて複数の行が表示されます。

2.4. 設定(S)

設定(S)	操作(O)	ヘルプ(H)
用紙設定(P)		
データ設定(D)		
データ加工設定(A)		
計算式(F)		
演算(C)		
ブレイク条件(B)		
外部変数(G)		
データ部配置設定(O)		
デフォルトフォントサイズ(S)		
整合性テスト(T)		Ctrl+T

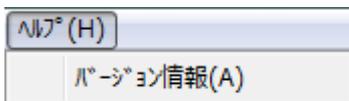
メニュー	説明
用紙設定(P)	レイアウトの用紙サイズ及び用紙方向を変更する時に使用します。詳細は、 『用紙設定』画面 を参照して下さい。
データ設定(D)	データの形式を変更する時に使用します。詳細は、 『データ設定』画面 を参照して下さい。
データ加工設定(A)	入力データ中の特定の文字列を別の文字列に変更する等、データを加工する時に使用します。詳細は、 『データ加工設定』画面 を参照して下さい。
計算式(F)	合計等の計算を定義する時に使用します。詳細は、 『計算式』画面 を参照して下さい。
演算(C)	件数等の集計計算を定義する時に使用します。詳細は、 『演算』画面 を参照して下さい。
ブレイク条件(B)	特定の条件で特定のブロックを出力したい等の条件を定義する時に使用します。詳細は、 『ブレイク条件』画面 を参照して下さい。
外部変数(G)	外部変数を定義する時に使用します。詳細は、 『外部変数』画面 を参照して下さい。
データ部配置設定(O)	※使用できません。
デフォルトフォントサイズ(S)	項目追加等のデフォルトのフォントサイズを変更する時に使用します。詳細は、 『デフォルトフォントサイズ』画面 を参照して下さい。
整合性テスト(T)	レイアウトの設定に関する整合性をテストする時に使用します。整合性テストの結果は、 『整合性テスト結果』画面 を参照して下さい。

2.5. 操作(O)



メニュー	説明
ブロック(B)	マウス操作の対象をブロックに切り替える時に使用します。 マウス操作の対象がブロックになっている場合は、左側にレ点が付きます。 詳細は、 ブロック操作説明 を参照して下さい。
項目(I)	マウス操作の対象を項目に切り替える時に使用します。 マウス操作の対象が項目になっている場合は、左側にレ点が付きます。 詳細は、 項目操作説明 を参照して下さい。
データエリア設定(D)	マウス操作の対象をデータエリアに切り替える時に使用します。 マウス操作の対象がデータエリアになっている場合は、左側にレ点が付きます。 詳細は、 データエリア操作説明 を参照して下さい。

2.6. ヘルプ(H)



メニュー	説明
バージョン情報(A)	バージョン情報ダイアログを表示する時に使用します。 詳細は、『 バージョン情報 』画面を参照して下さい。

2.7. メニュー操作補足

ショートカット(キーボードによる操作)

メニューバー上の”ファイル(F)”等のアルファベット部分は、ショートカットを表しています。
Alt キーとアルファベット及び、数字のキーを押すことで、キーボードによる操作が可能です。
また各メニュー内容中のアルファベットのキーを押すことで、同様にキーボードによる操作が可能です。

さらに各メニュー中の”Ctrl+アルファベット”や”Alt+アルファベット”等の表記がある部分は、メニュー操作無しに直接キーボード操作できるショートカットを表しています。

3章. 右メニュー説明

3.1. 右メニューについて

レイアウト表示部内でマウスの右ボタンをクリックすると、状況に応じたメニュー(使用できない機能はグレー表示されます)が表示されます。このメニューを右メニューと呼びます。

- ・ ブロックが配置されていない部分での右メニュー



- ・ ブロック上での右メニュー



- ・ 項目上での右メニュー



- ・ **一覧編集(ブロック)**
複数のブロックの属性をまとめて編集(確認)する場合に使用します。
[『ブロック属性の一覧編集』画面](#)が表示されます。
- ・ **編集(ブロック)**
複数(または1つの)のブロックの属性をまとめて編集する場合に使用します。
- ・ **追加(ブロック)**
ブロックを追加(新規作成)する場合に使用します。
- ・ **削除(ブロック)**
ブロックを削除する場合に使用します。
- ・ **コピー(ブロック)**
ブロックをコピーする場合に使用します。
- ・ **項目へ合わせる**
ブロックの大きさをブロック内の項目全てを囲う矩形に合わせる場合に使用します。
 - **幅と高さ**
幅と高さの両方を合わせる場合に使用します。
 - **高さ**
高さのみを合わせる場合に使用します。
 - **幅**
幅のみを合わせる場合に使用します。
- ・ **一覧編集(項目)**
複数の項目の属性をまとめて編集(確認)する場合に使用します。
[『項目属性の一覧編集』画面](#)が表示されます。
- ・ **編集(項目)**
複数(または1つの)の項目の属性を、まとめて編集する場合に使用します。
- ・ **追加(項目)**
項目を追加(新規作成)する場合に使用します。

- ・ **削除(項目)**
項目を削除する場合に使用します。

- ・ **コピー(項目)**
項目をコピーする場合に使用します。コピーする項目上で右クリックし、右メニュー上で、"コピー(項目)"を選択します。

- ・ **ブロックへ合わせる**
項目の位置や大きさを、ブロックに合わせる場合に使用します。
 - **上端(T)**
項目の上端をブロックの上端に合わせる場合に使用します。
 - **下端(B)**
項目の下端をブロックの下端に合わせる場合に使用します。
 - **左端(L)**
項目の左端をブロックの左端に合わせる場合に使用します。
 - **右端(R)**
項目の右端をブロックの右端に合わせる場合に使用します。
 - **高さ(H)**
項目の高さをブロックの高さに合わせる場合に使用します。
 - **幅(W)**
項目の幅をブロックの幅に合わせる場合に使用します。
 - **幅と高さ(S)**
項目の大きさ(幅と高さ)を、ブロックの大きさ(幅と高さ)に合わせる場合に使用します。

- ・ **配置等(H)**

配置等内のメニュー操作は、操作モードがブロック操作モードの場合はブロックが、項目操作モードの場合は項目が対象になります。

- **左揃え(L)**

選択済みのブロック(または項目)を最後に選択(右クリック)したブロック(または項目)の左端に揃えます。

- **右揃え(R)**

選択済みのブロック(または項目)を最後に選択(右クリック)したブロック(または項目)の右端に揃えます。

- **上揃え(T)**

選択済みのブロック(または項目)を最後に選択(右クリック)したブロック(または項目)の上端に揃えます。

- **下揃え(B)**

選択済みのブロック(または項目)を最後に選択(右クリック)したブロック(または項目)の下端に揃えます。

- **幅揃え(W)**

選択済みのブロック(または項目)を最後に選択(右クリック)したブロック(または項目)の幅に揃えます。

- **高さ揃え(H)**

選択済みのブロック(または項目)を最後に選択(右クリック)したブロック(または項目)の高さに揃えます。

- **横に整列(1)**

選択済みのブロック(または項目)を横方向に間隔 0 で配置します。また垂直位置は、最後に右クリックしたブロック(または項目)に合わせます。

- **縦に整列(2)**

選択済みブロック(または項目)を縦方向に間隔 0 で配置します。また水平位置は、最後に右クリックしたブロック(または項目)に合わせます。

- **横に均等配置(3)**

選択済みの項目を横方向に均等(幅を変更し各項目を同じ幅で)配置します。

- **縦に均等配置(4)**

選択済みの項目を縦方向に均等(高さを変更し各項目を同じ高さで)配置します。

- **幅を変更して左揃え(5)**

選択済みのブロック(または項目)の左端を最後に選択(右クリック)したブロック(または項目)の左端に揃えます。またこの時位置を変更せずに幅を変更します。

- **幅を変更して右揃え(6)**
選択済みのブロック(または項目)の右端を最後に選択(右クリック)したブロック(または項目)の右端に揃えます。またこの時位置を変更せずに幅を変更します。
 - **高さを変更して上揃え(7)**
選択済みのブロック(または項目)の上端を最後に選択(右クリック)したブロック(または項目)の上端に揃えます。またこの時位置を変更せずに高さを変更します。
 - **高さを変更して下揃え(8)**
選択済みのブロック(または項目)の下端を最後に選択(右クリック)したブロック(または項目)の下端に揃えます。またこの時位置を変更せずに高さを変更します。
- ・ **連結(J)**
- **上に連結(T)**
選択済みのブロック(または項目)を最後に選択(右クリック)したブロック(または項目)の上側に配置します。
 - **下に連結(B)**
選択済みのブロック(または項目)を最後に選択(右クリック)したブロック(または項目)の下側に配置します。
 - **左に連結(L)**
選択済みのブロック(または項目)を最後に選択(右クリック)したブロック(または項目)の左側に配置します。
 - **右に連結(R)**
選択済みのブロック(または項目)を最後に選択(右クリック)したブロック(または項目)の右側に配置します。

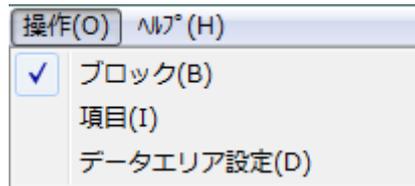
4章. ブロック操作説明

4.1. ブロック操作モード

ブロックを操作するには、まず以下の手順でブロック操作モードに切り替えます。

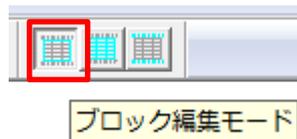
- メニュー

“操作”→“ブロック”を選択します。



- ツールバー

ツールバーの一番左をクリックします。



※操作モードは一度選択するとそのまま保持されます。

4.2. ブロック操作

- 選択

1. ブロック操作モードにします。
2. 選択したいブロック上にマウスを移動して、マウスをクリックします。

- 複数選択

1. ブロック操作モードにします。
2. 選択の手順に従い、選択操作を繰り返します。

※Ctrl キーを押さずにそのまま複数のブロックを選択します。

- まとめて選択

1. ブロック操作モードにします。
2. マウスをドラッグすることで複数のブロックを選択することが可能です。

- ・ **選択を解除**
 1. 選択を解除したいブロック上にマウスを移動して、マウスをクリックします。
※四隅及び、四辺の中央では、サイズ変更となりますので、ご注意ください。

- ・ **全ての選択を解除**
 1. キーボードの Esc キーを押します。
※メニューバー等にキーボードフォーカスが移っている場合、選択が解除されない場合があります。この場合は Esc キーを数回押して下さい。

- ・ **新規作成**
 1. ブロック操作モードにします。
 2. マウスを右クリックして、右メニューを開きます。
 3. 追加(ブロック)を選択します。点線の枠が、マウスに付いてくる様になります。
 4. 点線の枠を配置したい所に移動して、マウスをクリックします。
 5. サイズ変更の手順(後述)に従い大きさを変更します。

- ・ **移動**
 1. ブロック操作モードにします。
 2. 移動したいブロック上にマウスを移動します。
 3. Shift キーを押しながらマウスをクリックします。点線の枠が、マウスに付いてくる様になります。
 4. 点線の枠を配置したい所に移動して、マウスをクリックします。

- ・ **まとめて移動**
 1. ブロック操作モードにします。
 2. まとめて移動したい各ブロックを選択します。
 3. 選択済みの何れかのブロック上にマウスを移動し、Shift キーを押しながらマウスをクリックします。点線の枠が、マウスに付いてくる様になります。
 4. 点線の枠を配置したい所に移動して、マウスをクリックします。

- ・ **微移動**
 1. ブロック操作モードにします。
 2. 微移動したい各ブロックを選択します。
 3. ↑ ↓ ← → キーで移動したい方向に移動します。
 4. Enter キーを押して、微移動操作を完了します。
※微移動操作を取り消す場合は、Enter キーを押す前に、Esc キーを押します。

- **コピー**
 1. ブロック操作モードにします。
 2. コピーしたいブロック上にマウスを移動します。
 3. **Ctrl** キーを押しながらマウスをクリックします。点線の枠が、マウスに付いてくるようになります。
 4. 点線の枠を配置したい辺りに移動して、マウスをクリックします。

- **まとめてコピー**
 1. ブロック操作モードにします。
 2. まとめて移動したい各ブロックを選択します。
 3. 選択済みの何れかのブロック上にマウスを移動し、**Ctrl** キーを押しながらマウスをクリックします。点線の枠が、マウスに付いてくるようになります。
 4. 点線の枠を配置したい辺りに移動して、マウスをクリックします。

- **サイズ変更**
 1. ブロック操作モードにします。
 2. サイズ変更したいブロックの 4 隅の四角マークをクリックします。点線の枠が、マウスに付いてくるようになります。
 3. 点線の枠がサイズ変更後の大きさになる様にマウスを移動して、マウスをクリックします。

- **まとめてサイズ変更**
 1. ブロック操作モードにします。
 2. まとめてサイズ変更したい各ブロックを選択します。
 3. 選択済みの何れかのブロック上の 4 隅の四角マークを **Shift** キーを押しながらマウスをクリックします。点線の枠が、マウスに付いてくるようになります。
 4. 点線の枠が、サイズ変更後の大きさになる様にマウスを移動して、マウスをクリックします。

- **属性変更**
 1. ブロック操作モードにします。
 2. 属性を変更したいブロック上へマウスを移動して、マウスをダブルクリックします。

- ・ まとめて属性変更
 1. ブロック操作モードにします。
 2. 属性を変更したい各ブロック上を選択します。
 3. Alt キーと Enter キーを押します。または右メニュー上で、"編集(ブロック)"を選択します。

- ・ 削除
 1. ブロック操作モードにします。
 2. 削除したいブロックを選択します。
 3. Del キーを押します。または右メニュー上で"削除(ブロック)"をクリックします。
※複数のブロックが選択されている場合は、選択されているブロック全てが削除されてしまいます。

- ・ まとめて削除
 1. ブロック操作モードにします。
 2. 削除したい各ブロックを選択します。
 3. Del キーを押します。または右メニュー上で"削除(ブロック)"をクリックします。

4.3. ブロック操作時の注意

- ※ 見出しブロックや、データブロック、または"固定位置に出力する"属性がオフのブロックは、データエリア外(上下)には配置できません。この場合はデータエリアを予め変更して下さい。
- ※ ブロックはブロック内の全ての項目を囲むサイズより小さくする事はできません。この場合は予め項目のサイズを小さくして下さい。

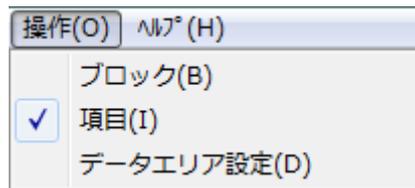
5章. 項目操作説明

5.1. 項目操作モード

項目を操作するには、まず以下の手順で操作モードを項目操作モードに切り替えます。

- メニュー

“操作”→”項目”を選択します。



- ツールバー

ツールバーの中央をクリックします。



※操作モードは一度選択するとそのまま保持されます。

5.2. 項目操作

- 選択

1. 項目操作モードにします。
2. 選択したい項目上にマウスを移動して、マウスをクリックします。

- 複数選択

1. 項目操作モードにします。
2. 選択の手順に従い、選択操作を繰り返します。

※Ctrl キーを押さずにそのまま複数の項目を選択します。

- まとめて選択

1. 項目操作モードにします。
2. マウスをドラッグすることで複数のブロックを選択することが可能です。

- ・ **選択を解除**
 1. 選択を解除したい項目上にマウスを移動して、マウスをクリックします。
※四隅及び、四辺の中央では、サイズ変更となりますので、ご注意ください。

- ・ **全ての選択を解除**
 1. キーボードの Esc キーを、押します。
※メニューバー等に、キーボードフォーカスが移っている場合、選択が解除されない場合があります。この場合は、Esc キーを数回押して下さい。

- ・ **新規作成**
 1. 項目操作モードにします。
 2. マウスを右クリックして、右メニューを表示させます。
 3. 追加(項目)を選択します。点線の枠が、マウスに付いてくる様になります。
 4. 点線の枠を配置したい所に移動して、マウスをクリックします。
 5. サイズ変更の手順(後述)に従い大きさを変更します。

- ・ **移動**
 1. 項目操作モードにします。
 2. 移動したい項目上にマウスを移動します。
 3. Shift キーを押しながら、マウスをクリックします。点線の枠が、マウスに付いてくる様になります。
 4. 点線の枠を配置したい所に移動して、マウスをクリックします。

- ・ **まとめて移動**
 1. 項目操作モードにします。
 2. まとめて移動したい各項目を選択します。
 3. 選択済みの何れかの項目上に、マウスを移動し、Shift キーを押しながら、マウスをクリックします。点線の枠が、マウスに付いてくる様になります。
 4. 点線の枠を配置したい所に移動して、マウスをクリックします。

- ・ **微移動**
 1. 項目操作モードにします。
 2. 微移動したい各項目を選択します。
 3. ↑ ↓ ← → キーで移動したい方向に移動します。
 4. Enter キーを押して、微移動操作を完了します。
※微移動操作を取り消す場合は、Enter キーを押す前に、Esc キーを押します。

- ・ コピー
 1. 項目操作モードにします。
 2. コピーしたい項目上にマウスを移動します。
 3. Ctrl キーを押しながらマウスをクリックします。点線の枠が、マウスに付いてくるようになります。
 4. 点線の枠を配置したい所に移動して、マウスをクリックします。

- ・ まとめてコピー
 1. 項目操作モードにします。
 2. まとめて移動したい各項目を選択します。
 3. 選択済みの何れかの項目上に、マウスを移動し、Ctrl キーを押しながら、マウスをクリックします。点線の枠が、マウスに付いてくるようになります。
 4. 点線の枠を配置したい所に移動して、マウスをクリックします。

- ・ サイズ変更
 1. 項目操作モードにします。
 2. サイズ変更したい項目の4隅の四角マークをクリックします。点線の枠がマウスに付いてくるようになります。
 3. 点線の枠がサイズ変更後の大きさになる様にマウスを移動して、マウスをクリックします。

- ・ まとめてサイズ変更
 1. 項目操作モードにします。
 2. まとめてサイズ変更したい各項目を選択します。
 3. 選択済みの何れかの項目上の4隅の四角マークをクリックします。点線の枠が、マウスに付いてくるようになります。
 4. 点線の枠がサイズ変更後の大きさになる様にマウスを移動して、マウスをクリックします。

- ・ 属性変更
 1. 項目操作モードにします。
 2. 属性を変更したい項目上へマウスを移動して、マウスをダブルクリックします。

- ・ まとめて属性変更
 1. 項目操作モードにします。
 2. 属性を変更したい各項目を選択します。
 3. AltキーとEnterキーを押します。または右メニュー上で、"編集(項目)"を選択します。

- ・ 削除
 1. 項目操作モードにします。
 2. 削除したい項目を選択します。
 3. Delキーを押します。または右メニュー上で"削除(ブロック)"をクリックします。

※複数の項目が選択されている場合は、選択されている項目全てが削除されてしまいます。

- ・ まとめて削除
 1. 項目操作モードにします。
 2. 削除したい各項目を選択します。
 3. Delキーを押します。または右メニュー上で"削除(項目)"を選択します。

5.3. 項目操作時の注意

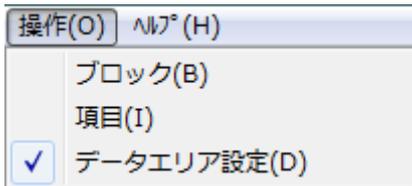
- ※ 項目はブロックの外へは配置できません。ブロックの外へ配置すると自動的にブロックの大きさも調整されます。

6章. データエリア操作説明

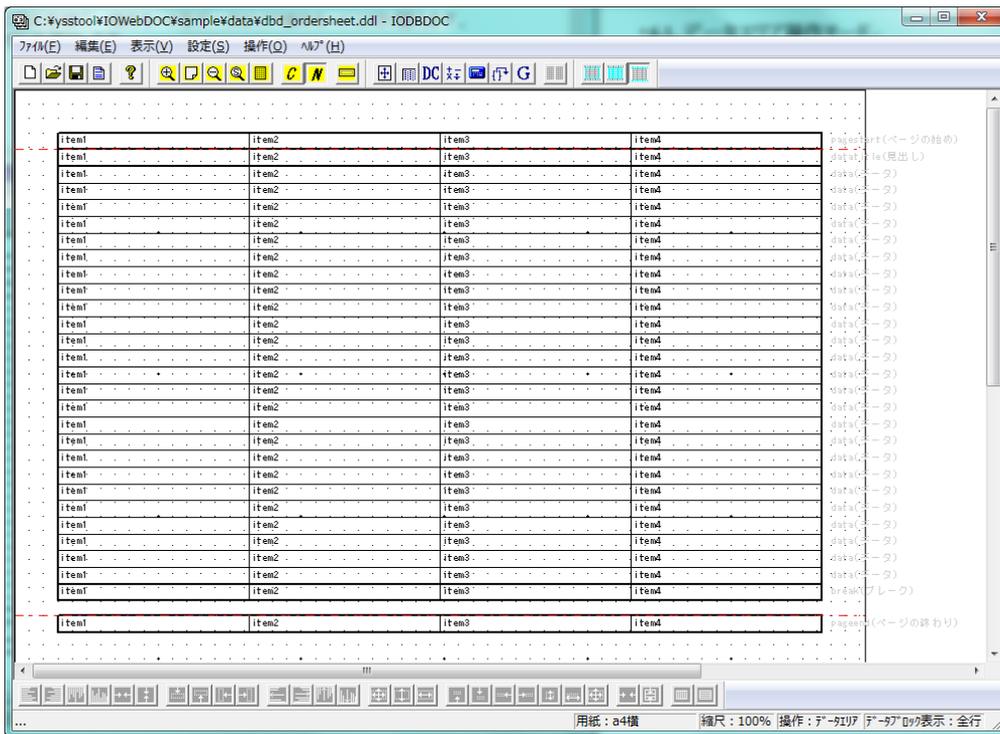
6.1. データエリア操作モード

データエリアを操作するには、まず以下の手順で操作モードを”データエリア操作モード”に切り替えます。

メニュー→“操作”→”データエリア設定”を選択します。



データエリアを示す点線が赤色表示に変わります。



6.2. エリアの変更

1. 赤い線の上にマウスを移動しクリックします。黒い点線がマウスに付いてくるようになります。
2. 点線を変更後の所に移動して、マウスをクリックします。

7章. 画面一覧

7.1. 一覧形式画面の基本操作

IOBDOC は、後述の例の様なリストビューを使用した画面を多用しています。この説明では、これらの画面についての共通の操作について説明します。

一覧形式画面の例

例1) 『データ設定』画面

データ設定

データ数(N) 区切り文字 ▼

一覧(D)

番号	データ型	コメント
1	テキスト	
2	テキスト	
3	テキスト	
4	テキスト	

↑(U) ↓(D)

番号 データ型: ▼

コメント

OK キャンセル(O)

例2) 『データ加工設定』画面

条件式	加工方法	データ項...	置換る文...	文字列	繰り返...	コメント

条件式(E)

変数一覧(V) \$1 条件式に挿入(I)

加工方法(D) 特定の文字列 変更データ項目 置き換える文字列 文字列(置換え後)

繰り返し: 回

コメント(M)

追加(A) ↑(U) ↓(D) 削除(D) OK キャンセル(C)

- 一覧の行を選択する

何も選択されていない状態及び、既に選択されている行を無視して新規に 1 つ選択する場合は、選択したい行の上へマウスを移動しクリックします。

既に選択されている状態で、さらに他の行を選択する場合は、選択したい行の上へマウスを移動し、Ctrl キーを押しながらクリックします。この時 Shift キーを押しながらクリックするとマウスの一番近い行からマウスのある行迄が、連続的に選択されます。

- 一覧の行の選択を解除する

全ての選択を解除するには、有効な行が無い所へマウスを移動し、クリックします。

複数の行が選択されている状態で、特定の行の選択を解除するには、選択を解除したい行へマウスを移動し、Ctrl キーを押しながら、クリックします。この時 Shift キーを押しながらクリックするとマウスの一番近い行からマウスのある行迄が、連続的に選択解除されます。

- 一覧に表示されている内容を変更する

1. 変更したい行を 1 つまたは複数選択します。この時選択した行の内容が、一覧部分の下のコントロールが並んでいる部分に反映されます。複数選択した場合は、選択行中の一番上の行の内容が反映されます。

2. 一覧部分の下のコントロールに反映された値を変更します。この時変更した値は、一覧中の選択している行に反映されます。

7.2. 『新規作成』画面

- 画面イメージ



- 用紙

“用紙”エディットには、現在選択されている用紙名と用紙方向が、表示されます。変更する場合は、“設定”ボタンをクリックします。用紙設定の詳細は、[『用紙設定』画面](#)を参照して下さい。

- 出力タイプ

使用する出力タイプのブロックをチェックします。出力タイプの詳細は、ブロック属性編集の[『基本属性』タブ](#)を参照して下さい。

- 項目数および同期

出力タイプをチェックすると、項目数のグレー表示が解除され、項目数が入力可能になります。デフォルトではどれか 1 つのブロックの項目数を変更すると、全てのブロックの項目数を変更されます。

各ブロックの個数を別々に入力する場合は、同期のチェックを外してから項目数を入力します。

- ・ **固定位置**

出力タイプをチェックすると、固定位置チェックのグレー表示が解除され、固定位置チェックの入力が可能になります。

固定位置がオンの場合、ブロックは毎ページ常に固定の場所に出力されます。

またオフの場合は、ブロックは毎ページ出力位置が計算され、データエリア内に出力されます。
- ・ **フォントサイズ**

新規作成するレイアウト内の項目に割り当てる文字サイズを指定します。
- ・ **データ数・詳細設定**

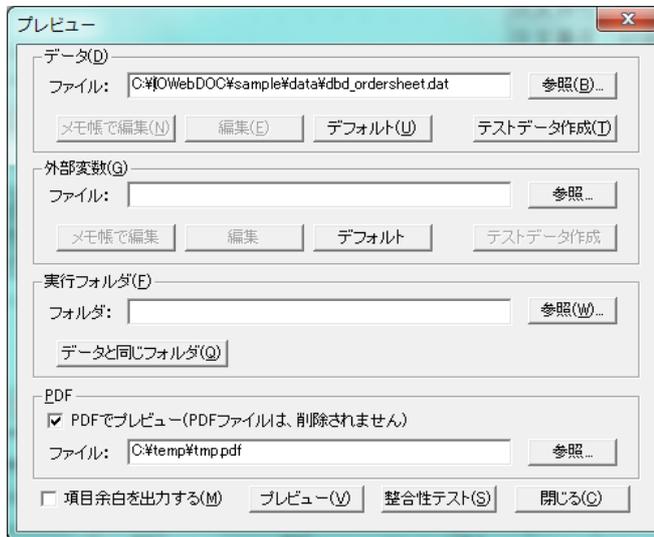
データ形式(1行のデータの数)を指定します。"詳細設定"ボタンをクリックすると、[『データ設定』画面](#)が、表示されます。
- ・ **OK**

入力値を決定して前の画面に戻る場合は、このボタンをクリックして下さい。
- ・ **キャンセル**

入力を取り消して前の画面に戻る場合は、このボタンをクリックして下さい。

7.3. 『プレビュー』画面

- 画面イメージ



- データ
 - ファイル
プレビュー用のテストデータのファイル名を入力します。
 - 参照
既存のファイルを選択する場合は、"参照"ボタンを押して選択します。
 - メモ帳で編集
メモ帳等を使用して編集できます。
ファイルが存在しない等の理由で開けない場合は、グレー表示になります。
 - 編集
ファイルを編集できます。編集するエディタは、環境(ファイルと拡張子の関連付け)に依存します。
ファイルが存在しない等の理由で開けない場合は、グレー表示になります。
 - デフォルト
デフォルトのファイル名を表示します。デフォルトのファイル名は、ファイル名の拡張子(".ddl")を".txt"にしたものです。
編集中のレイアウトにファイル名が付いていない場合は、グレー表示になります。
 - テストデータ作成
ファイルにテストデータを自動作成して、書き込みます。またファイルが存在する場合は、確認画面を表示します。

- ・ **外部変数**
 - **ファイル**

プレビュー用のテスト外部変数データのファイル名を入力します。
 - **参照**

既存のファイルを選択して指定する場合は、"参照"ボタンを押して選択します。
 - **メモ帳で編集**

メモ帳等を使用して編集できます。
ファイルが存在しない等の理由で開けない場合は、グレー表示になります。
 - **編集**

ファイルを編集できます。編集するエディタは、環境(ファイルと拡張子の関連付け)に依存します。
ファイルが存在しない等の理由で開けない場合は、グレー表示になります。
 - **デフォルト**

デフォルトのファイル名を表示します。デフォルトのファイル名は、ファイル名の拡張子(".ddl")を".gbl.txt"にしたものです。
編集中のレイアウトにファイル名が付いていない場合は、グレー表示になります。
 - **テストデータ作成**

ファイルにテストデータを自動作成して、書き込みます。
またファイルが存在する場合は、確認画面を表示します。

- ・ **実行フォルダ**
 - **フォルダ**

プレビューに使用するデータファイル及び外部変数ファイル内に画像ファイルへの相対パス等を含んでいる等の理由で、実行フォルダを指定する必要がある場合に入力します。
 - **参照**

既存のフォルダを選択して指定する場合は、"参照"ボタンを押して選択します。
 - **データと同じフォルダ**

入力済みのデータファイルと同じフォルダを指定する場合は、このボタンをクリックします。

- ・ **項目余白を出力する**

プレビュー結果に項目の余白の設定を示す点線の枠を挿入します。

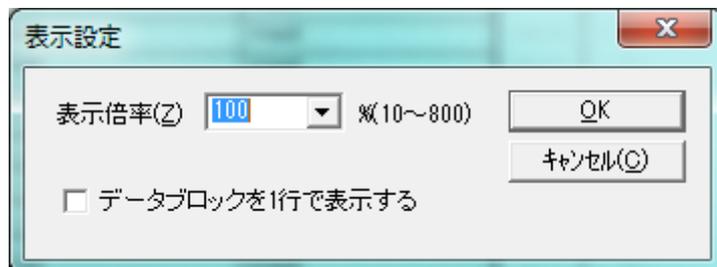
- ・ **プレビュー**

画面に入力されている情報を使用してプレビューを実行します。

- ・ **整合性テスト**
現在の編集中のレイアウトの整合性テストを行います。詳細は、[『整合性テスト結果』画面](#)を参照して下さい。
- ・ **閉じる**
現在の画面上の値が保存され、この画面を閉じます。

7.4. 『表示設定』画面

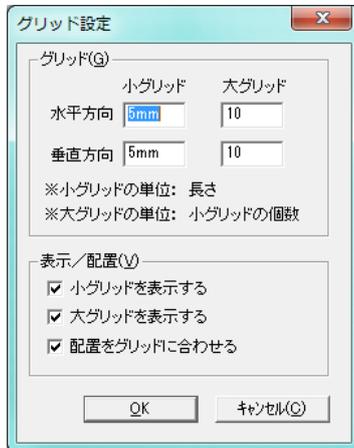
- 画面イメージ



- 表示倍率**
表示領域内の表示の倍率を 10%～800%の間の数値で指定します。
- データブロックを一行で表示する**
チェックすると表示領域内のデータブロック部分の表示を1行で表示します。データブロックの表示行数や表示項目が多い場合に使用すると、描画による待ち時間を短縮できます。
- OK**
入力値を決定して前の画面に戻る場合は、このボタンをクリックして下さい。
- キャンセル**
入力を取り消して前の画面に戻る場合は、このボタンをクリックして下さい。

7.5. 『グリッド設定』画面

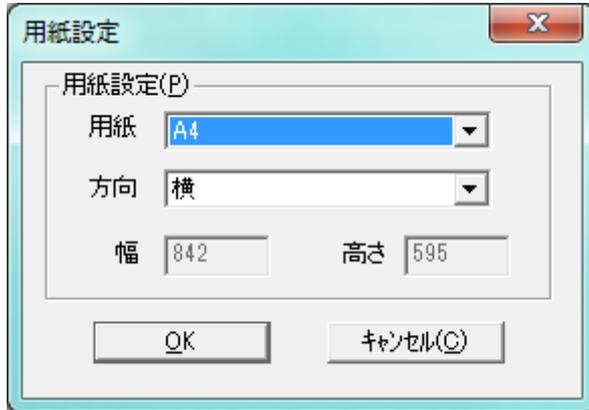
- 画面イメージ



- 小グリッド**
左上からどれくらいの実寸間隔で、グリッドを設定するかを指定します。
指定する間隔は長さです。”mm”、”cm”、”inch”等を指定できます。
- 大グリッド**
何個おきに大きなグリッドを表示するかを設定します。
- 小グリッドを表示する**
表示エリア内に小グリッドを表示する場合はチェックします。
- 大グリッドを表示する**
表示エリア内に大グリッドを表示する場合はチェックします。
- 配置をグリッドに合わせる**
チェックすると指定したグリッド間隔に合わせてブロックや項目を配置します。
- OK**
入力値を決定して前の画面に戻る場合は、このボタンをクリックして下さい。
- キャンセル**
入力を取り消して前画面に戻る場合、このボタンをクリックして下さい。

7.6. 『用紙設定』画面

- 画面イメージ



- 用紙

用紙を選択します。一覧以外(一般的でない)の用紙を指定する場合は、リスト中の一番下の”サイズを指定”を選択します。

“サイズを指定”を選択すると、“幅”及び”高さ”の項目のグレー表示が解除され、入力が可能になります。

- 方向

用紙方向(縦、横)を選択します。

- 幅・高さ

“サイズを指定”以外の用紙が選択されている場合は、用紙の幅と高さが表示されます。

(入力できません)

“サイズを指定”の用紙が選択された場合は、入力可能になります。用紙のサイズを指定します。

- OK

入力値を決定して前の画面に戻る場合は、このボタンをクリックして下さい。

- キャンセル

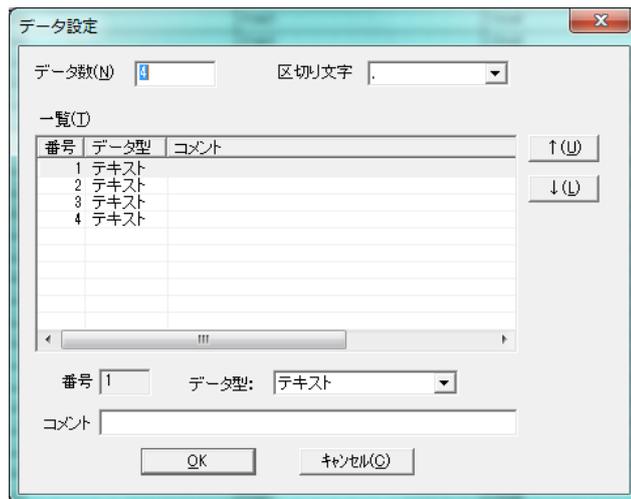
入力を取り消して前の画面に戻る場合は、このボタンをクリックして下さい。

7.7. 『データ設定』画面

IOBDOC はデータベースの検索結果等を帳票にする事を想定している為、『データ設定』画面では CSV データをイメージしたデータ 1 行の形式を設定します。

一覧の編集の基本操作については、[一覧形式画面の基本操作](#)を参照して下さい。

- 画面イメージ



- データ数

データの列数を指定します。

- 区切り文字

CSV データにした場合の区切り文字を指定します。プレビュー時のデータの解析時等に使用します。直接文字(半角)を入力するか、制御文字(TAB を含む)であれば一覧から選択します。

- 一覧

現在設定済みのデータの各列の内容が一覧表示されます。データ数に現在の表示より大きい数が入力されると自動的に行が追加されます。データ数を減らした場合は、一覧上は変更されませんが、"OK"ボタンクリック時にデータ数の分だけ保存されます。順番を変更する場合は、移動する行を選択後、"↑"、"↓"ボタンを使用します。

- 番号

一覧中の選択されている行の番号が表示されます。

- ・ **データ型**
通常は、“テキスト”を選択して下さい。データが画像ファイルのファイル名等を示す文字列の場合は、イメージを選択します。

- ・ **コメント**
任意の文字列をコメントとして指定できます。この内容は、他の画面のリスト表示の内容等に使用されます。

- ・ **OK**
入力値を決定して前の画面に戻る場合は、このボタンをクリックして下さい。

- ・ **キャンセル**
入力を取り消して前の画面に戻る場合は、このボタンをクリックして下さい。

7.8. 『データ加工設定』画面

データ加工は、以下の目的で使用できます。

- 特定のデータを別の文字に変更する。(01 を○×にする等)
- 特定のデータ行を使用しない。
- 特定のデータの大文字、小文字を変更する。
- 特定のデータ中の特定の文字を別の文字に置き換える。
- 特定のデータ行を繰り返す。

一覧の編集の基本操作については、[一覧形式画面の基本操作](#)を参照して下さい。

画面イメージ

条件式	加工方法	データ項...	置換る文...	文字列	繰り返...	コメント	追加(A)
strleft(\$1s, 1) == '#	データ行を使用しない	1			0		↑(U)
							↓(L)
							削除(D)

条件式(E)
strleft(\$1s, 1) == "#

変数一覧(V) calc_subtotal 条件式に挿入(I)

加工方法(D) 変更データ項目 置き換える文字列 文字列(置換え後)

データ行を使用しない \$1(品名)

繰り返し: 0 回

コメント(M)

OK キャンセル(C)

一覧

現在設定済みのデータ加工設定の内容が一覧表示されます。

“追加”ボタンを押すと、新しい行が一覧に追加され選択状態になります。

また順番を変更するには、行を選択後、“↑”、“↓”ボタンを使用します。

“削除”ボタンを押すと、選択されている行が削除されます。

条件式

条件式には変数一覧に表示されている変数を使用できます。”変数一覧”を選択後、“条件式に挿入”ボタンをクリックすると、エディットボックス中の現在のカーソル位置に変数名が挿入されます。

- ・ 加工方法
 - 特定の文字列
条件が一致した時にカラムのデータを特定の文字列に変更する場合に使用します。
 - データ行を使用しない
条件が一致した時にデータ行を使用しない(削除する)場合に使用します。
 - 大文字にする
条件が一致した時にカラムのデータを大文字に変更する場合に使用します。
 - 小文字にする
条件が一致した時にカラムのデータを小文字に変更する場合に使用します。
 - 文字列を置き換え
条件が一致した時にカラムのデータに含まれる文字列を特定の文字列に置き換える場合に使用します。
 - 繰り返し
条件が一致した時にデータ行を複数回使用する(繰り返す)場合に使用します。

- ・ 変更データ項目
加工方法が、“特定の文字列”、“大文字にする”、“小文字にする”、“文字列を置き換え”の何れかの場合は、どのデータを加工するかを指定します。

- ・ 置き換える文字列
加工方法が、“文字列を置き換え”の場合に置き換えるの対象になる文字列を入力します。

- ・ 文字列(置き換え後)
加工方法が、“特定の文字列”、“文字列を置き換え”の場合に置き換え後の文字列を入力します。

- ・ 繰り返し
加工方法が、“繰り返し”の場合に繰り返す回数を指定します。

- ・ コメント
任意の文字列をコメントとして指定できます。この内容は、他の画面のリスト表示の内容等に使用されます。

- ・ OK
入力値を決定して前の画面に戻る場合は、このボタンをクリックして下さい。

- ・ キャンセル

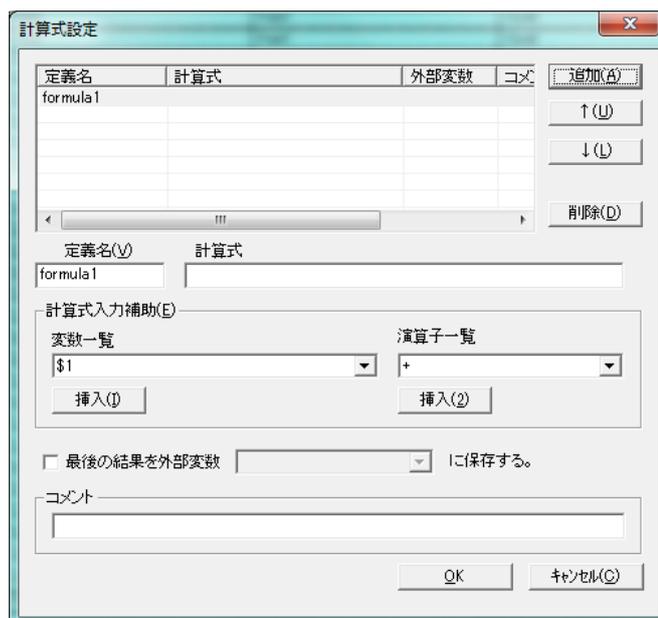
入力を取り消して前の画面に戻る場合は、このボタンをクリックして下さい。

7.9. 『計算式』画面

計算式は、主に統計等の計算を定義する時に使用します。

一覧の編集の基本操作については、[一覧形式画面の基本操作](#)を参照して下さい。

- 画面イメージ



- 一覧

現在設定済みの計算式の内容が一覧表示されます。

- 追加

新しい計算式を追加する場合に使用します。”追加”ボタンを押すと、新しい行が一覧に追加され、選択状態になります。

- ↑

一覧中の選択されている行を上へ移動します。

- ↓

一覧中の選択されている行を下へ移動します。

- 削除

一覧中の選択されている行を削除します。

- ・ **定義名**
計算式に対して名前を付けます。項目の表示内容等にこの名前を使用します。

- ・ **計算式**
計算式を入力します。計算式には変数一覧に表示されている変数を使用できます。”変数一覧”を選択後、”挿入”ボタンをクリックすると、エディットボックス中の現在のカーソル位置に、変数名が挿入されます。
また、演算子も同様に、”演算子一覧”を選択後、”挿入”ボタンをクリックすると、演算子が挿入されます。

- ・ **最後の結果を外部変数に保存する**
集計結果等を、複数ページ中の先頭ページに出力する様な場合に使用します。”2回目で処理する”属性の付いた外部変数に、最後の計算結果を保存する事で実現できます。
指定するには、チェックボックスをチェックします。コンボボックスのグレー表示が解除されますので外部変数を選択して下さい。

- ・ **コメント**
任意の文字列をコメントとして指定できます。この内容は、他の画面のリスト表示の内容等に使用されます。

- ・ **OK**
入力値を決定して前の画面に戻る場合は、このボタンをクリックして下さい。

- ・ **キャンセル**
入力を取り消して前の画面に戻る場合は、このボタンをクリックして下さい。

7.10. 『演算』画面

演算は、総合計、ページ単位、ブレイク単位等の集計処理を定義する時に使用します。

一覧の編集の基本操作については、[一覧形式画面の基本操作](#)を参照して下さい。

- 画面イメージ

- 一覧

現在設定済みの演算の内容が一覧表示されます。

- 追加

新しい演算設定を追加する場合に使用します。”追加”ボタンを押すと、新しい行が一覧に追加され、選択状態になります。

- コピー

一覧中の選択されている行をコピーして、最後に追加します。追加された行は選択状態になります。

- 削除

一覧中の選択されている行を削除します。

- 定義名

演算に対して名前を付けます。項目の表示内容等に、この名前を使用します。

- ・ **演算方法**

演算の方法を選択します。

件数: データの行番号を出力する場合に使用します。

合計: 総合計等を出力する場合に使用します。

平均: 総平均等を出力する場合に使用します。

最大値: 最大値を出力する場合に使用します。

最小値: 最小値を出力する場合に使用します。

- ・ **対象データの項目変数**

外部変数を選択して下さい。

- ・ **演算範囲**

演算を行う範囲を指定します。

全て: 全てのデータを処理する間の演算を行います。

ページ単位: ページ単位で演算を行います。演算値は改ページ時にリセットします。

ブレイク単位: ブレイク単位で演算を行います。演算値はブレイク時にリセットされます。

- ・ **ブレイク条件**

演算範囲を”ブレイク単位”にするとグレー表示が解除されます。演算の範囲に使用するブレイクを選択して下さい。

- ・ **コメント**

任意の文字列をコメントとして指定できます。この内容は、他の画面のリスト表示の内容等に使用されます。

- ・ **OK**

入力値を決定して前の画面に戻る場合は、このボタンをクリックして下さい。

- ・ **キャンセル**

入力を取り消して前の画面に戻る場合は、このボタンをクリックして下さい。

7.11. 『ブレイク条件』画面

ブレイクは、小計や総合計、データ途中でのコメントの挿入など、特定の条件下でデータの加工処理を定義する時に使用します。

以下の手順で作成します。

- 1 つまたは複数のブレイク条件詳細を作成
 2. 作成したブレイク条件詳細を組み合わせた(または単位で)ブレイク条件を作成
- ※一覧の編集の基本操作については、[一覧形式画面の基本操作](#)を参照して下さい。

・ 画面イメージ

ブレイク条件設定

ブレイク条件詳細設定(D)

定義名	種類	データ	条件

追加(1)
↑(2)
↓(3)
削除(4)

条件設定(S)

詳細設定名

種類 データ 条件

データ項目変数 \$1 が 変わった 場合

ブレイク条件設定(B)

定義名	条件文	コメント

追加(4)
↑(5)
↓(6)
削除(7)

条件設定(M)

ブレイク定義名

条件文

条件文入力補助(I)

詳細設定の定義名 &&(かつ) ||(または) ()

コメント

OK キャンセル(C)

- ・ ブレーク条件詳細設定
 - 一覧
現在設定済みのブレーク条件詳細の内容が一覧表示されます。
 - 追加
新規にブレーク条件詳細設定を追加する時に使用します。
 - ↑
一覧中の選択されている行を上へ移動します。
 - ↓
一覧中の選択されている行を下へ移動します。
 - 削除
一覧中の選択されている行を削除します。
 - 条件設定
 - ◇ 条件設定名
詳細条件に対して名前を付けます。
 - ◇ 種類
データ項目の変数を指定します。
 - ◇ データ
データ項目変数の一覧が表示されます。どのデータカラムに対してブレークを設定するかを指定します。
 - ◇ 条件
どの条件でブレークを発生するかを指定します。
変わった: データの内容が変わったらブレークを発生させます。
NULL である: 空データを検出したらブレークを発生させます。

- ・ ブレーク条件設定
 - 一覧
現在設定済みのブレーク条件の内容が一覧表示されます。
 - 追加
新規にブレーク条件を追加する時に使用します。
 - ↑
一覧中の選択されている行を上へ移動します。
 - ↓
一覧中の選択されている行を下へ移動します。
 - 削除
一覧中の選択されている行を削除します。

- ・ **条件設定**
 - **ブレイク定義名**

ブレイク条件に対して名前を付けます。データブロックに対してブレイク条件を割り当てる時に、この名前を使用します。
 - **条件文**

単純なブレイクの場合は、ブレイク条件詳細を1つ指定します。
ブレイク条件詳細を組み合わせる場合は、&&、||、()演算子を使用できます。“&&”、“||”、“(”、“)”の各ボタンを押すと、条件文のカーソルの位置に演算子が挿入されます。
“詳細設定の定義名”ボタンを押すと、ブレイク条件詳細設定の一覧中の選択されている設定名が、条件文のカーソル位置に挿入されます。
 - **コメント**

任意の文字列をコメントとして指定できます。この内容は、他の画面のリスト表示の内容等に使用されます。

- ・ **OK**

入力値を決定して前の画面に戻る場合は、このボタンをクリックして下さい。

- ・ **キャンセル**

入力を取り消して前の画面に戻る場合は、このボタンをクリックして下さい。

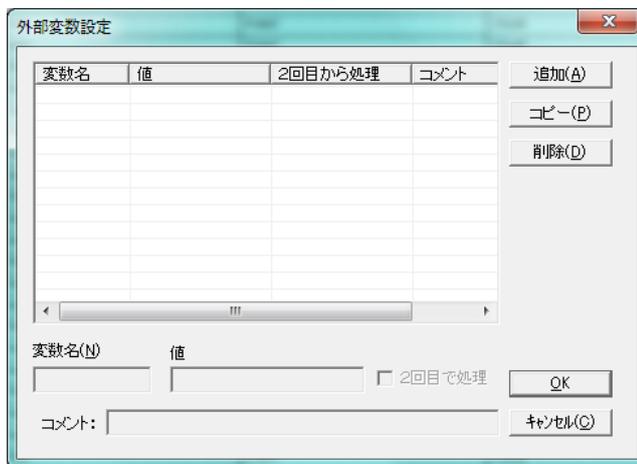
7.12. 『外部変数』画面

外部変数は、データ行で毎行指定する必要の無いタイトルや、ヘッダ部分に一度だけ出力する項目等を変数として使用する場合に使用します。

また”2 回目で処理”属性を使用して、集計結果を先頭ページに出力する場合にも使用します。

※一覧の編集の基本操作については、[一覧形式画面の基本操作](#)を参照して下さい。

- 画面イメージ



- 一覧

現在設定済みの外部変数の内容が一覧表示されます。

- 追加

一覧中の選択されている行をコピーして最後に追加します。追加された行は選択状態になります。

- 削除

一覧中の選択されている行を削除します。

- 変数名

外部変数に対して名前を付けます。項目の表示内容等にこの名前を使用します。

- 値

外部変数に対する値を指定します。

- ・ **2回目で処理**
チェックすると、この外部変数を使用する項目には、外部変数名がデータとして適用されます。
またランタイムの内部的な2回目の処理で、この外部変数がデータとして展開されます。
これにより総ページ数や総合計等先頭ページ等へ出力する事が可能になります。

- ・ **コメント**
任意の文字列をコメントとして指定できます。この内容は、他の画面のリスト表示の内容等に使用されます。

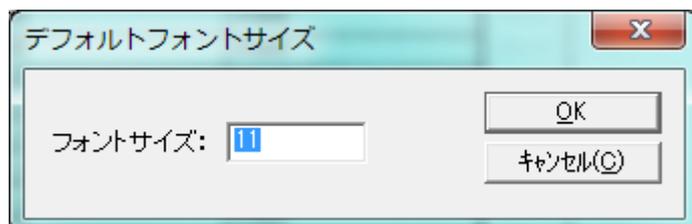
- ・ **OK**
入力値を決定して前の画面に戻る場合は、このボタンをクリックして下さい。

- ・ **キャンセル**
入力を取り消して前の画面に戻る場合は、このボタンをクリックして下さい。

7.13. 『デフォルトフォントサイズ』画面

項目を新規に作成する時のデフォルトのフォントサイズを設定します。

- ・ 画面イメージ



- ・ フォントサイズ

項目を新規に作成する時のデフォルトのフォントサイズを指定します。

- ・ **OK**

入力値を決定して前の画面に戻るには、このボタンをクリックして下さい。

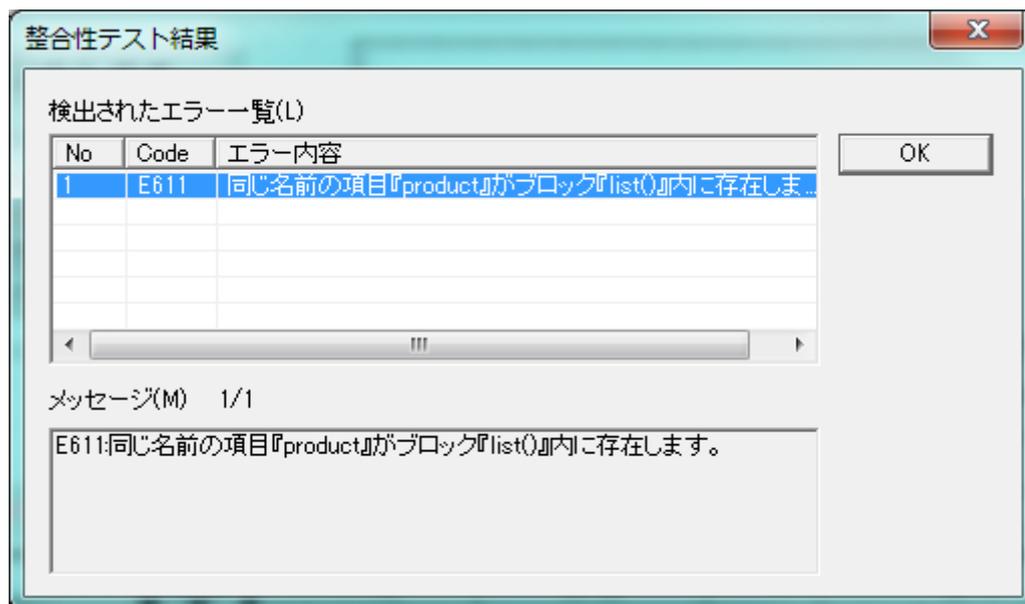
- ・ キャンセル

入力を取り消して前の画面に戻るには、このボタンをクリックして下さい。

7.14. 『整合性テスト結果』画面

ここでは画面の説明のみを記載しています。エラー内容については、[整合性テストエラー一覧](#)を参照して下さい。

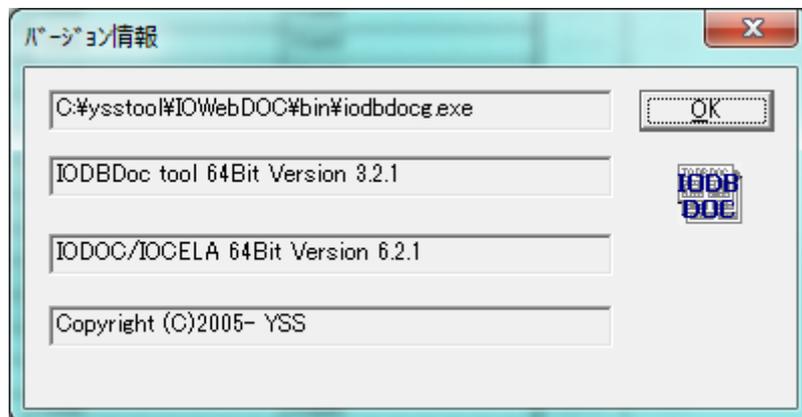
- 画面イメージ



- 検出されたエラー一覧
 - **No.**
連番が表示されます。
 - **Code**
エラーコードが表示されます。
 - **エラー内容**
詳細エラーメッセージが表示されます。
- メッセージ
検出されたエラー一覧中の行を選択すると、該当行のエラー内容が表示されます。
- OK**
この画面を終了して、前の画面に戻ります。

7.15. 『バージョン情報』画面

- ・ 画面イメージ



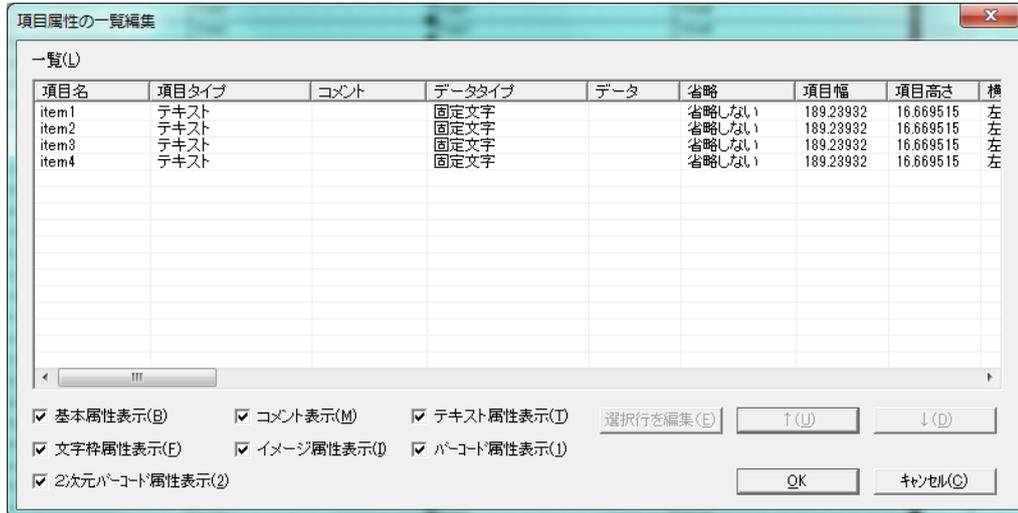
上から順に以下の内容が表示されます。

- このプログラムのファイルへのフルパス
- このプログラムファイルのバージョン
- IODOC 製品バージョン
- IODOC 製品のコピーライト表示
- この画面を終了するには、”OK”ボタンをクリックして下さい。

7.16. 『項目属性の一覧編集』画面

一覧編集の基本操作については、[一覧形式画面の基本操作](#)を参照して下さい。

- 画面イメージ



- 一覧

全項目の属性が一覧表示されます。

- 基本属性表示

チェックする(初期状態)と、一覧内の基本属性の列が表示されます。チェックをオフすると、基本属性の列の幅が0で表示されます。

- コメント表示

チェックする(初期状態)と、一覧内のコメントの列が表示されます。チェックをオフすると、コメントの列の幅が0で表示されます。

- テキスト属性表示

チェックする(初期状態)と、一覧内のテキスト項目固有の属性列が表示されます。チェックをオフすると、テキスト項目固有の属性列の幅が0で表示されます。

- 文字枠属性表示

チェックする(初期状態)と、一覧内の文字枠項目固有の属性列が表示されます。チェックをオフすると、文字枠項目固有の属性列の幅が0で表示されます。

- ・ **イメージ属性表示**
チェックする(初期状態)と、一覧内のイメージ項目固有の属性列が表示されます。チェックをオフすると、イメージ項目固有の属性列の幅が 0 で表示されます。
- ・ **バーコード属性表示**
チェックする(初期状態)と、一覧内のバーコード項目固有の属性列が表示されます。チェックをオフすると、バーコード項目固有の属性列の幅が 0 で表示されます。
- ・ **2次元バーコード属性表示**
チェックする(初期状態)と、一覧内の 2次元バーコード項目固有の属性列が表示されます。チェックをオフすると、2次元バーコード項目固有の属性列の幅が 0 で表示されます。
- ・ **選択行を編集**
『項目属性編集』画面が表示され一覧中の選択されている項目の属性を編集できます。
- ・ **OK**
入力値を決定して前の画面に戻る場合は、このボタンをクリックして下さい。
- ・ **キャンセル**
入力を取り消して前の画面に戻る場合は、このボタンをクリックして下さい。

7.17. 『項目属性編集』画面

7.17.1. 『基本属性』タブ

- 画面イメージ

- 項目名
項目に対して名前を付けます。
- 項目タイプ
項目タイプを指定します。

テキスト	“テキスト”を指定した項目には、改行を含まないテキストデータを出力できます。
バーコード	“バーコード”を指定した項目には、バーコードを出力できます。
2次元バーコード	“2次元バーコード”を指定した項目には、2次元バーコードを出力できます。
イメージ	“イメージ”を指定した項目には、BMP、JPG 等のイメージを出力できます。
文字枠	“文字枠”を指定した項目は、表部分のブレイクが発生した時に処理され出力されます。”文字枠”を指定した項目には、改行を含むテキストを出力できます。

- データタイプ

固定文字	データに固定の文字列を指定する場合はこれを使用します。
データ項目変数	外部からのデータを指定する場合はこれを使用します。
予約変数	IOBDOC で予め用紙されている予約変数を、データとして使用する場合に使用します。
演算	演算機能で作成した演算の結果を、データとする場合に使用します。
計算式	計算式機能で作成した計算式の結果を、データとする場合に使用します。
外部変数	外部変数機能で作成した外部変数の結果を、データとする場合に使用します。

- データ

データタイプに合わせたデータを指定します。

固定文字	任意の文字列を指定します。
データ項目変数	一覧を開いて、該当するデータ項目変数名を指定します。
予約変数	一覧を開いて、該当する予約変数名を指定します。
演算	一覧を開いて、該当する演算名を指定します。
計算式	一覧を開いて、該当する計算式名を指定します。
外部変数	一覧を開いて、該当する外部変数名を指定します。

※項目タイプが”文字枠”でデータタイプが”固定文字”の場合は、以下の様な画面になります。

内容を入力して指定するか、”エディタで編集”ボタンをクリックして、任意のテキストを指定できます。

基本属性(B)

項目名

項目タイプ

データタイプ

データ

同一データは省略する

- 同一データは省略する

データブロック内の項目で、同一データが連続した場合に、一行にまとめて省略したい場合に指定します。

- ・ **大きさ**
項目の幅と高さを指定して決定したい場合に使用します

- ・ **配置**
 - **横位置**
データを項目内の、左、中央、右のどこに合わせるかを指定します。
また、均等配置を指定すると、項目の大きさに対してデータが均等に配置されます。
 - **縦位置**
データを項目内の、上、中央、下のどこに合わせるかを指定します。

- ・ **項目余白**
テキストの下端を罫線等にかぶさらない様にしたい等の場合に、項目(上下左右)に対して余白を設定できます。横位置、縦位置等はこの余白を除いた部分に対して適用されません。

- ・ **分割線**
分割線を使用すると、項目の領域を均等に分割する線を設定できます。
 - **分割数**
項目を何分割するかを指定します。
※分割線のその他については、線の属性指定を参照して下さい。

- ・ **コメント**
項目に対するコメントを任意の文字列で指定できます。

7.17.2. 『項目罫線／背景』タブ

項目の罫線、背景、角の丸め度合いの設定を行います。

- 画面イメージ



- 罫線の設定

色、線種、線幅を指定します。この設定が描画設定の各ボタンクリック時に適用されます。

色、線種、線幅の詳細は、[線の属性指定](#)を参照して下さい。

- 描画設定

指定または設定を変更したい箇所のボタンをクリックします。罫線指定されている状態では、ボタンが窪んだ状態が表示されます。

- 背景設定

背景のパターンまたは色を指定します。詳細は、[背景の属性指定](#)を参照して下さい。

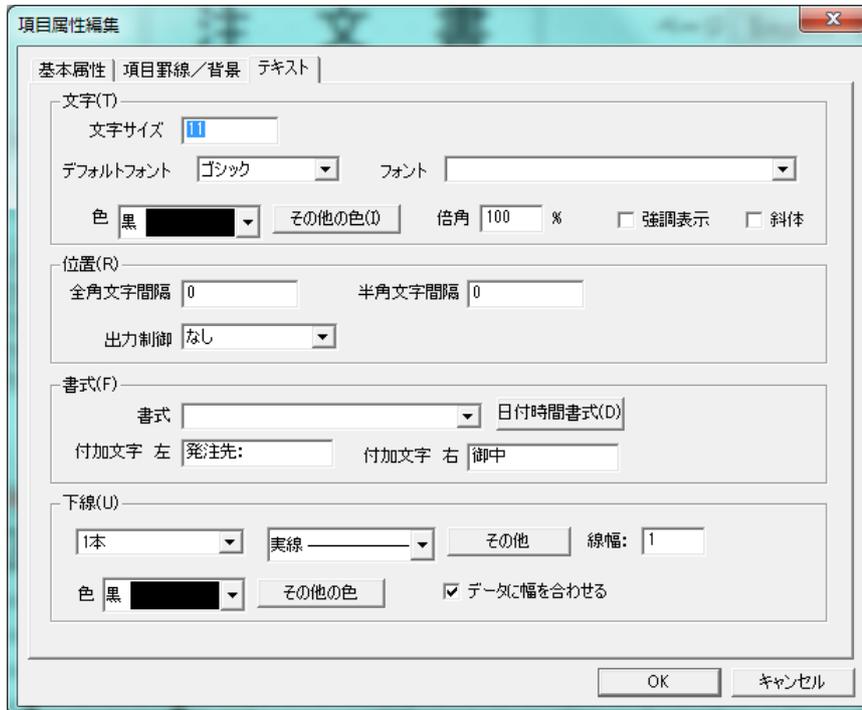
- 丸め度合い

ブロックの角を丸める場合に数値を指定します。[丸め度合い属性の指定](#)を参照して下さい。

7.17.3. 『テキスト』タブ

項目の罫線、背景、角の丸め度合いの設定を行います。

- 画面イメージ



- 文字

- 文字サイズ

文字のサイズを指定します。

- デフォルトフォント

"ゴシック"または"明朝"を指定します。"フォント"属性が未指定の場合や、"フォント"属性で指定したフォントが使用できない場合等は、この設定が使用されます。

- フォント

特別なフォントを指定する場合は、一覧からフォントを選択して指定します。直接入力も可能です。

- 色

一覧中の色を選択します。一覧に無い色を指定する場合は、"その他の色"ボタンをクリックします。一般的な色の指定ダイアログが開きます。

- 倍角

文字の横幅に対する倍率を指定します。通常は 100(%)を指定します。

- 強調表示

文字を太字にする場合に指定します。

- **斜体**
文字を斜めにする場合に指定します。

- ・ **位置**

- **全角文字間隔**
全角文字の後ろのスペース量を指定します。
- **半角文字間隔**
半角文字の後ろのスペース量を指定します。
- **出力制御**
項目内にテキストデータが収まりきらなかった場合等のデータ出力方法を指定します。

切り捨て	入りきらないデータを切り捨てます。
文字サイズ縮小	文字サイズを小さくしてデータが入りきるように調節します。
なし	何もせずにそのまま出力します。

- ・ **書式**

- **書式**
識別子書式を指定します。
- **日付時間書式**
日付時間タイプの IODOC の識別子書式を指定する場合は、「日付時間書式」をクリックします。
- **付加文字 左**
データ出力時にデータの前に付加する任意の文字列を指定します。
- **付加文字 右**
データ出力時にデータの後ろに付加する任意の文字列を指定します。

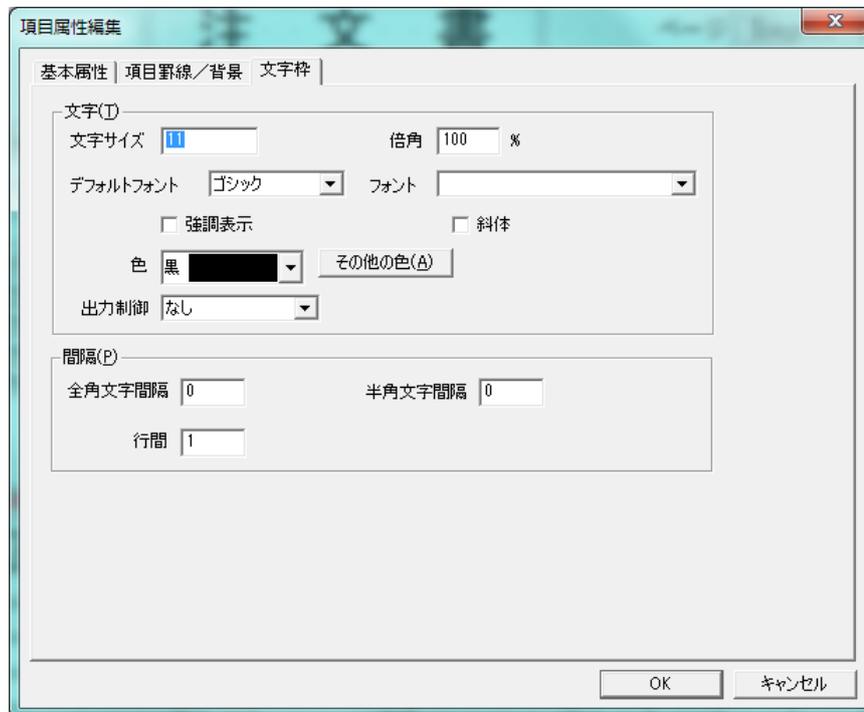
- ・ **下線**

- **種類**
下線の種類を指定します。「なし」を指定すると下線は引かれません。
- **データに幅を合わせる**
通常下線は、項目の下端に項目の幅で引かれます。「データに幅を合わせる」をチェックすると、データに応じて線の長さが決まります。

7.17.4. 『文字枠』タブ

基本属性の項目タイプが”文字枠”の項目の文字枠に関連する属性を設定します。

- 画面イメージ



- 文字

文字関連の属性については、『テキスト』タブを参照してください。

- 間隔

- 全角文字間隔

全角文字の後ろのスペース量を指定します。

- 半角文字間隔

半角文字の後ろのスペース量を指定します。

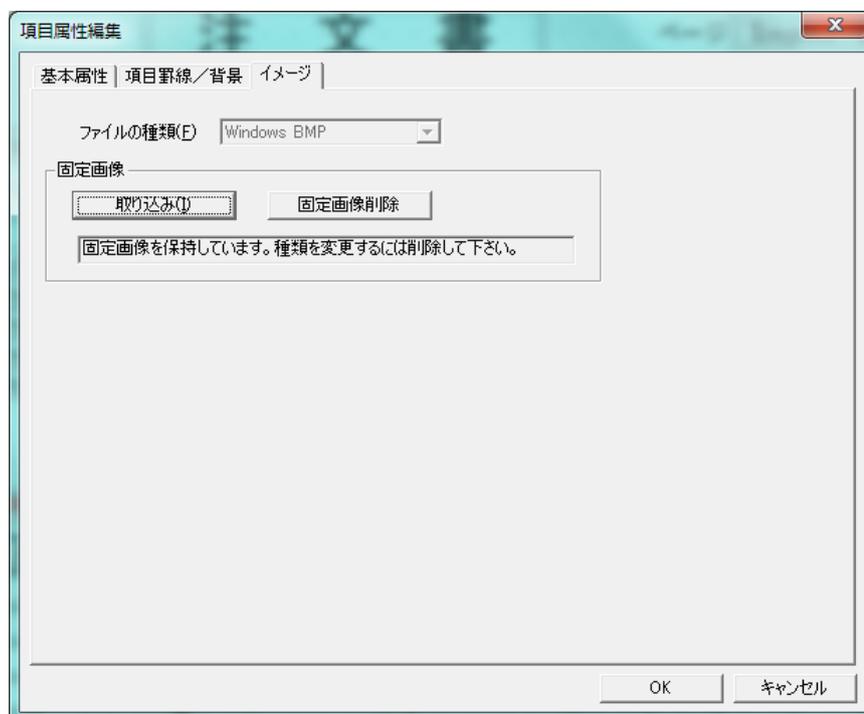
- 行間

複数行出力する場合の行の間隔を指定します。

7.17.5. 『イメージ』タブ

基本属性の項目タイプが”イメージ”の項目のイメージに関連する属性を設定します。

- 画面イメージ



- ファイルの種類

画像の種類を指定します。

- 固定画像の取り込み

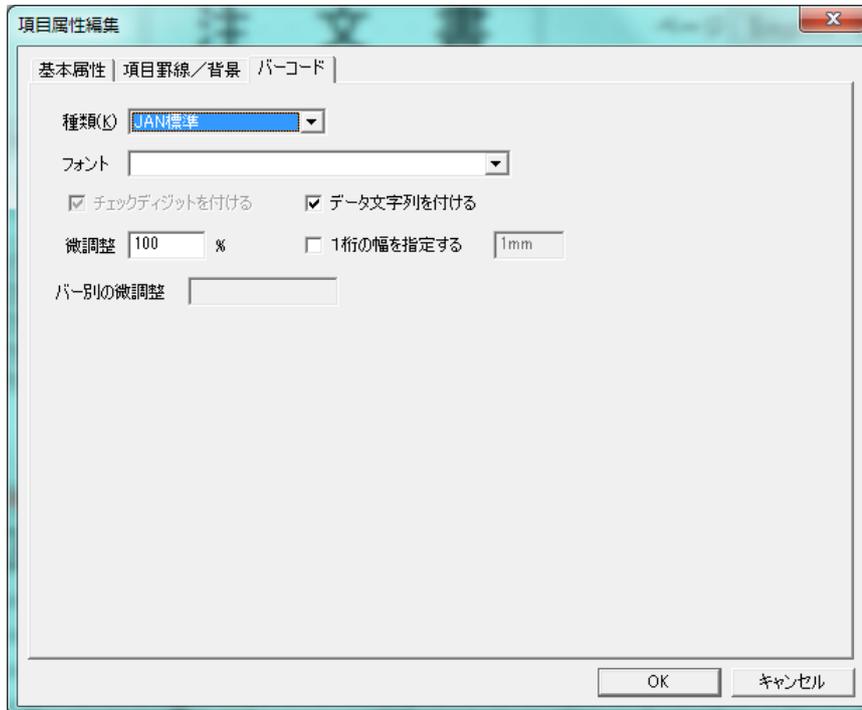
ファイル選択ダイアログで画像ファイルを選択します。

ここで指定した画像ファイルは、DDL ファイル保存時に DDL ファイル内に保存されます。

7.17.6. 『バーコード』タブ

基本属性の項目タイプが”バーコード”の項目のバーコードに関連する属性を設定します。

- 画面イメージ



- 種類

バーコードの種類を指定します。

- フォント

バーコードの下部に出力するテキスト部分のフォントを指定します。主に CODE39 等のフォントを OCR フォントにする為に使用します。

- チェックディジットを付ける

チェックディジットの有無が任意のタイプのバーコードに対して出力の有無を指定します。

- データ文字列を付ける

バーコードの下部にテキストを付加するかどうかを指定します。

- 微移動

プリンタ等に出力する場合にインクのにじみ具合等により見妙にバーの幅を調整する場合に使用します。通常は 100(%)を指定します。

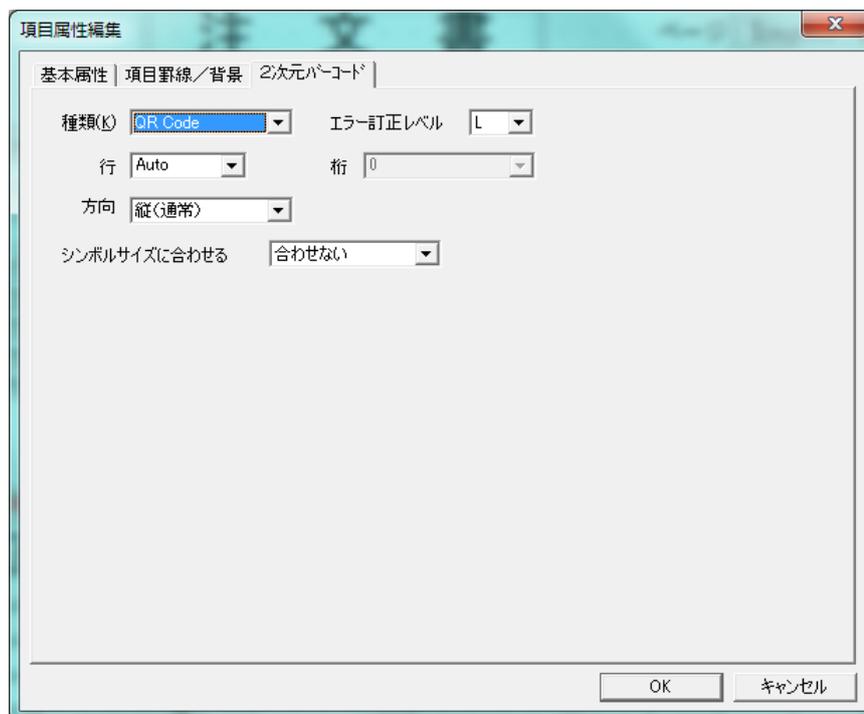
- ・ 1桁の幅を指定する

通常は領域に合わせてバーコードを作成しますが、領域を無視して1桁の幅を指定する
場合に使用します。

7.17.7. 『2次元バーコード』タブ

基本属性の項目タイプが”2次元バーコード”の項目の2次元バーコードに関連する属性を設定します。

- 画面イメージ



- 種類

2次元バーコードの種類を指定します。

- エラー訂正レベル

エラー訂正レベルを指定します。

- 行

QRコードの場合は、自動("Auto")または1から40迄のバージョンを選択します。PDF417の場合は、自動("Auto")または3から90迄の数値を指定します。

- 桁

QRコードの場合は指定できません。PDF417の場合は、自動("Auto")または1から28迄の数値を指定します。

- ・ 方向
通常は”縦(通常)”を指定します。特に横にしたい場合は”横(90° 回転)”を指定します。
- ・ シンボルサイズに合わせる
通常(”合わせない”)を指定した場合は、2次元バーコードは項目の大きさに合わせて出力されます。

7.18. 『項目属性編集』画面(複数)

※基本操作及び属性の説明については、『[項目属性編集](#)』画面を参照して下さい。ここでは、複数の項目の属性をまとめて変更する方法について説明します。

- 基本操作

各属性を変更すると、後述の各画面イメージ内の赤で囲われた"変更する属性"部分内の対応するチェックボックスが自動的にチェックされます。

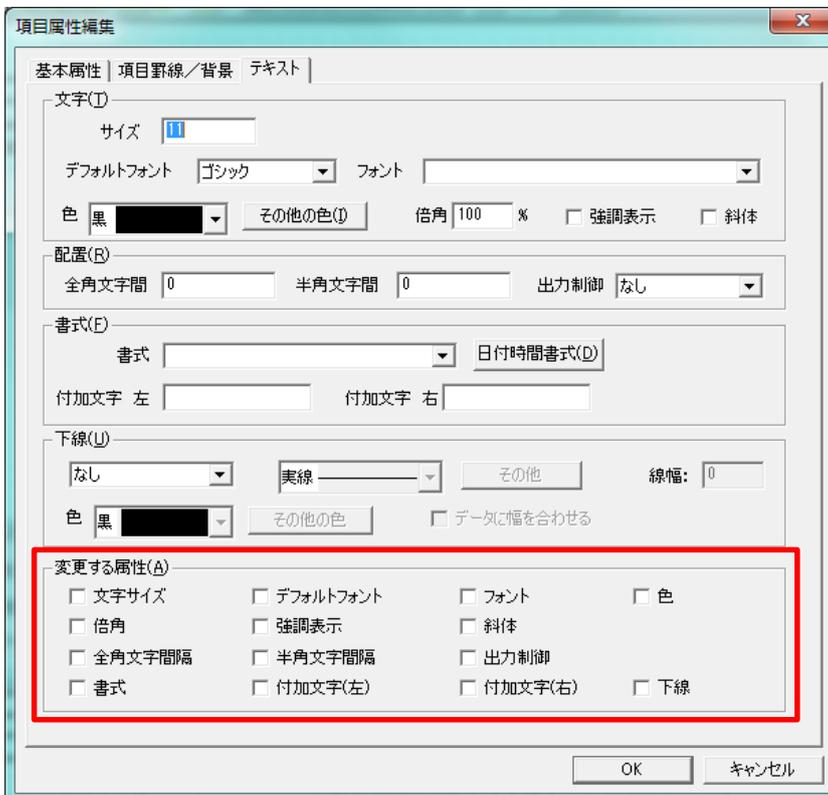
"OK"ボタンクリック時は、チェックされている属性のみが属性変更対照の項目に対して反映されます。

- 『基本属性』タブの画面イメージ

- ・ 『項目罫線／背景』タブの画面イメージ



- ・ 『テキスト』タブの画面イメージ



- ・ 『バーコード』タブの画面イメージ

The screenshot shows the 'Item Property Edit' dialog box with the 'Barcode' tab selected. The '種類(K)' dropdown is set to 'JAN標準'. The 'チェックディジットを付ける' and 'データ文字列を付ける' checkboxes are checked. The '微調整' is set to 100%. The '1桁の幅を指定する' checkbox is unchecked, and the width is set to 1mm. The 'バー別の微調整' field is empty. A red box highlights the '変更する属性(C)' section, which contains checkboxes for '種類', 'データ文字列を付ける', '1桁の幅', 'フォント', '微調整', and 'バー別の微調整'. The 'OK' and 'キャンセル' buttons are at the bottom.

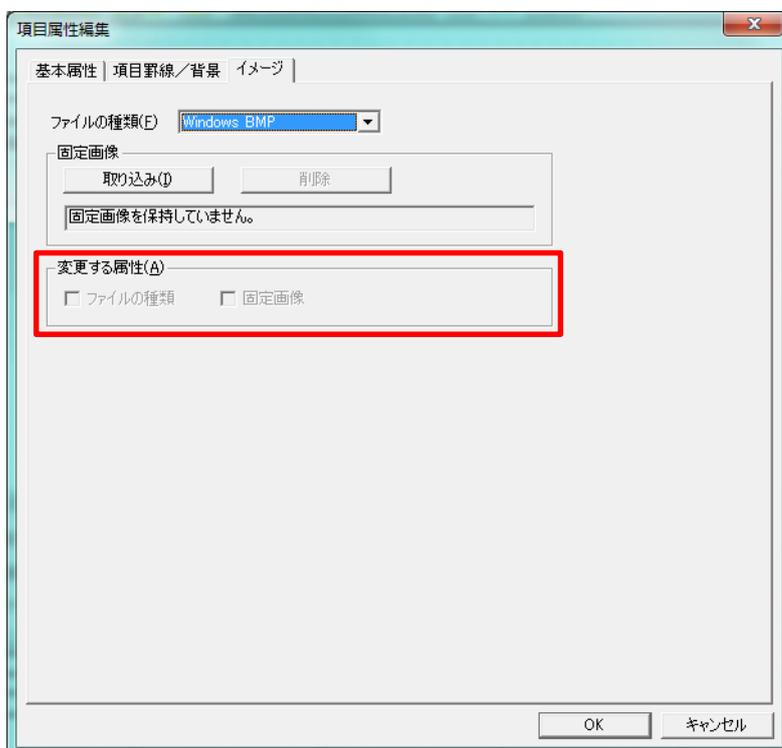
- ・ 『2次元バーコード』タブの画面イメージ

※この画面は対象となる項目に2次元バーコードタイプの項目が含まれる場合のみ表示されます。

The screenshot shows the 'Item Property Edit' dialog box with the '2次元バーコード' tab selected. The '種類(K)' dropdown is set to 'QR Code'. The 'エラー訂正レベル' is set to 'L'. The '行数' is set to 'Auto' and the '桁数' is set to '0'. The '方向' is set to '縦(通常)'. The 'シンボルサイズに合わせる' checkbox is checked. A red box highlights the '変更する属性(A)' section, which contains checkboxes for '種類', 'エラー訂正レベル', '桁数', '方向', and 'シンボルサイズに合わせる'. The 'OK' and 'キャンセル' buttons are at the bottom.

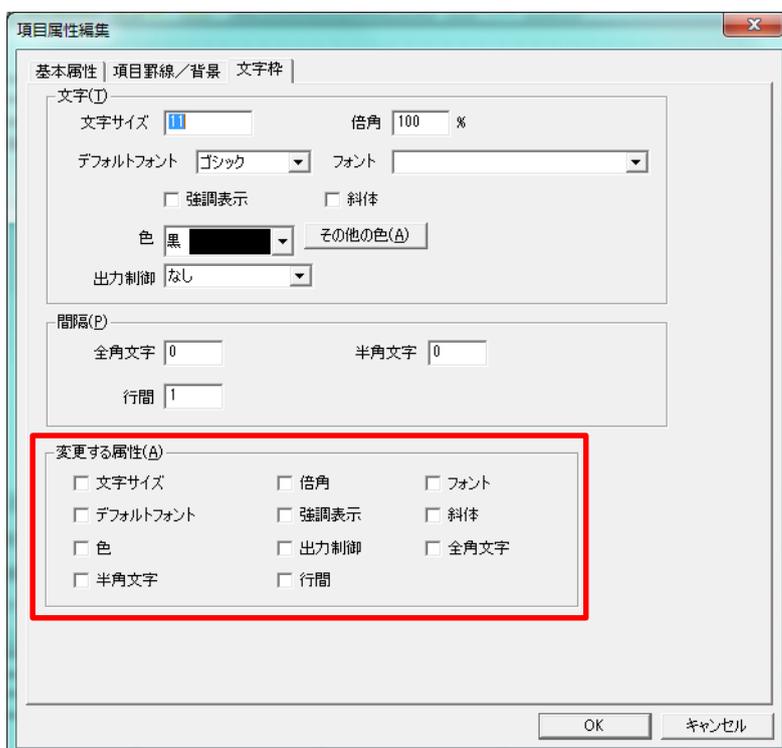
・ 『イメージ』タブの画面イメージ

※この画面は対象となる項目にイメージタイプの項目が含まれる場合のみ表示されます。



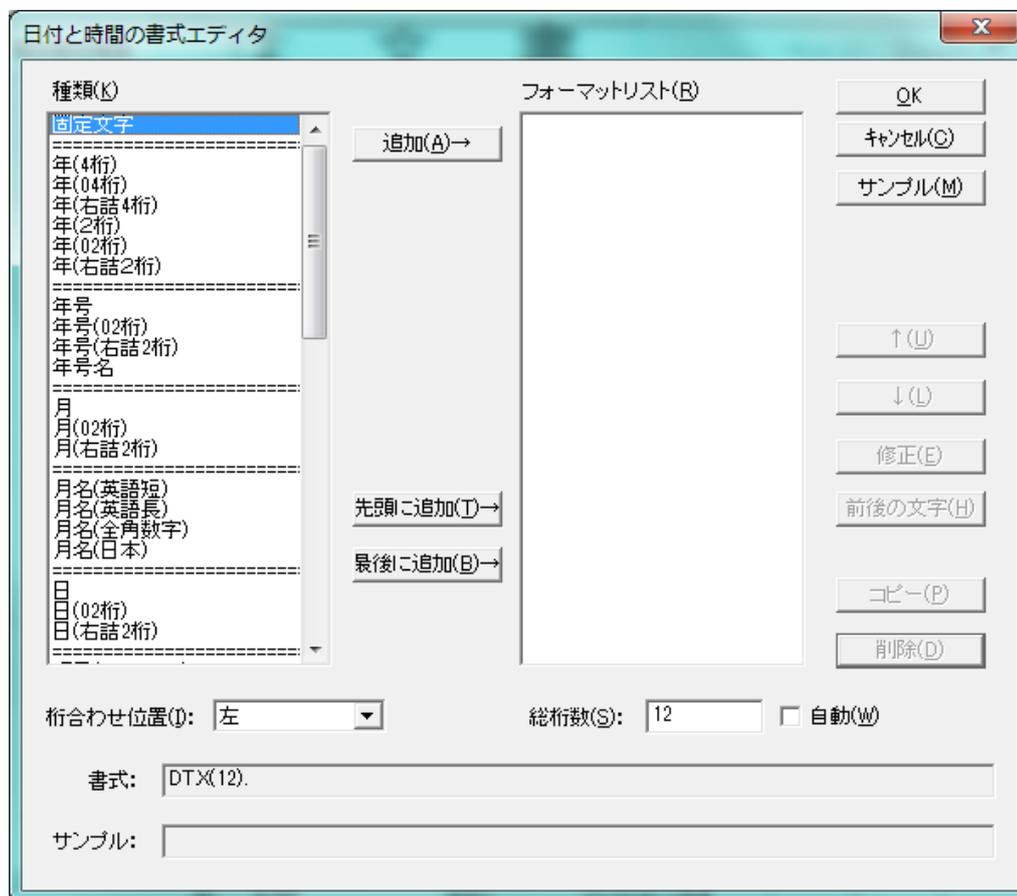
・ 『文字枠』タブの画面イメージ

※この画面は対象となる項目に文字枠タイプの項目が含まれる場合のみ表示されます。



7.19. 『日付と時間の書式エディタ』画面

- 画面イメージ



- OK**
入力値を決定して前の画面に戻る場合は、このボタンをクリックして下さい。
- キャンセル**
入力を取り消して前の画面に戻る場合は、このボタンをクリックして下さい。

7.20. 『ブロック属性の一覧編集』画面

一覧の編集の基本操作については、一覧形式画面の基本操作を参照して下さい。

- 画面イメージ



- 一覧

全ブロックの属性が一覧表示されます。

- 基本属性表示

チェックする(初期状態)と、一覧内の基本属性の列が表示されます。チェックをオフにすると、基本属性の列の幅が0で表示されます。

- コメント表示

チェックする(初期状態)と、一覧内のコメントの列が表示されます。チェックをオフにすると、コメントの列の幅が0で表示されます。

- データ固有属性表示

チェックする(初期状態)と、一覧内のデータブロック固有の属性列が表示されます。チェックをオフにすると、データブロック固有の属性列の幅が0で表示されます。

- ブレイク固有属性表示

チェックする(初期状態)と、一覧内のブレイク固有の属性列が表示されます。チェックをオフにすると、ブレイク固有の属性列の幅が0で表示されます。

- ・ **選択行を編集**
『ブロック属性編集』画面が表示され、一覧中の選択されているブロックの属性を編集できます。

- ・ **上へ**
一覧中の選択されている行を上へ移動します。

- ・ **下へ**
一覧中の選択されている行を下へ移動します。

- ・ **OK**
入力値を決定して前の画面に戻る場合は、このボタンをクリックして下さい。

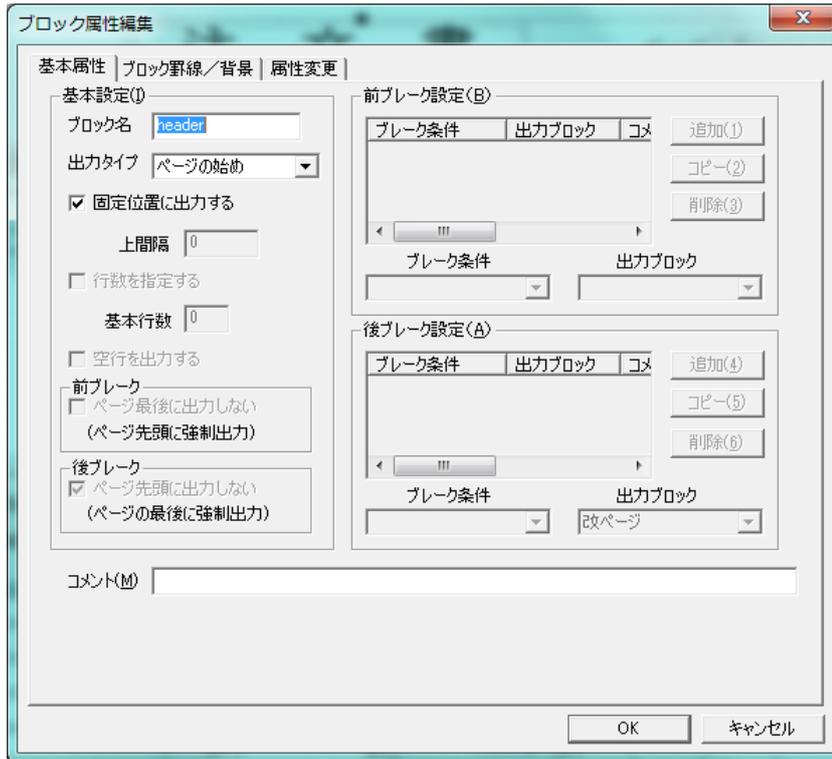
- ・ **キャンセル**
入力を取り消して前の画面に戻る場合は、このボタンをクリックして下さい。

7.21. 『ブロック属性編集』画面

7.21.1. 『基本属性』タブ

一覧の編集の基本操作については、[一覧形式画面の基本操作](#)を参照して下さい。

- 画面イメージ



- ブロック名**
ブロックに対して名前を付けます。

- 出力タイプ**

文書の始め	文書の始めのページ(1 ページ目)で処理され出力されます。
ページの始め	各ページの先頭で処理され出力されます。
見出し	表部分の見出しとして処理され出力されます。
データ	表部分に処理され出力されます。
ブレーク	表部分のブレークが発生した時に処理され出力されます。
ページの終わり	各ページの最後で処理され出力されます。
文書の終わり	文書の最後(最後のページ)で処理され出力されます。

- **固有位置に出力する**
チェックをオンにすると、データエリア内での自動配置の対象になります。データブロックは、必ず自動的に配置されるので、このチェックをオンにできません。
- **上間隔**
自動配置(”固有位置に出力する”属性がオフ)する場合の、直前に出力したブロックとの間隔を指定します。
- **行数を指定する**
データブロック固有の属性です。データエリア内に常に出力する行数を固定にしたい時にチェックをオンにします。このチェックをオフにした場合は、データエリアに入りきる限り出力されます。
- **基本行数**
データブロック固有の属性です。”行数を指定する”をオンにした場合や、”空行を出力する”をオンにした場合の行数を指定します。
- **空行を出力する**
データブロック固有の属性です。データエリア内に空を残したまま改ページした場合や、最終ページで空を残したままデータが終了した場合に空部分を空行で埋めます。
- **ページ最後の出力しない(ページ先頭に必ず出力)**
ブレイクブロック固有の属性です。チェックをオンにすると、前ブレイクでブレイクブロックがページの最後に来た場合に、最後には出力せずに次のページの先頭に出力するようになります。
- **前ブレイク設定、後ブレイク設定**
データブロック固有の属性です。どのブレイクが発生した所でブレイクするかを設定します。
前ブレイク: データブロック出力前に、ブレイク発生の検出が行われます。
後ブレイク: データブロック出力後に、ブレイク発生の検出が行われます。
※予めブレイク条件を作成する必要があります。
 - **一覧**
設定されているブレイクの一覧が表示されます。
 - **追加**
ブレイク設定を追加する場合に使用します。

- コピー
一覧中の選択されている設定をコピーして最後に追加します。
 - 削除
一覧中の選択されている設定を削除します。
 - ブレーク条件
予め作成済みのブレーク条件の一覧が表示されます。
 - 出力ブロック
ブレークブロックの一覧が表示されます。ブレークが発生した時に出力するブレークブロックを指定します。※後ブレークでは、改ページの指定も可能です。
- ・ コメント
ブロックに対するコメントを任意の文字列で指定できます。

7.21.2. 『ブロック罫線／背景』タブ

ブロックの罫線、背景、角の丸め度合い、行間罫線の設定を行います。

※行間罫線は、データブロックのみが対象です。

- 画面イメージ



- 罫線の設定

色、線種、線幅を指定します。この設定が描画設定の各ボタンクリック時に適用されます。

色、線種、線幅の詳細は、線の属性指定を参照して下さい。

- 描画設定

設定を変更したい箇所のボタンをクリックします。罫線指定されている状態では、ボタンが窪んだ状態で表示されます。

行間ボタンは、データブロック出力時の行の間の罫線です。

- 背景設定

背景のパターンまたは色を指定します。詳細は、[背景の属性指定](#)を参照して下さい。

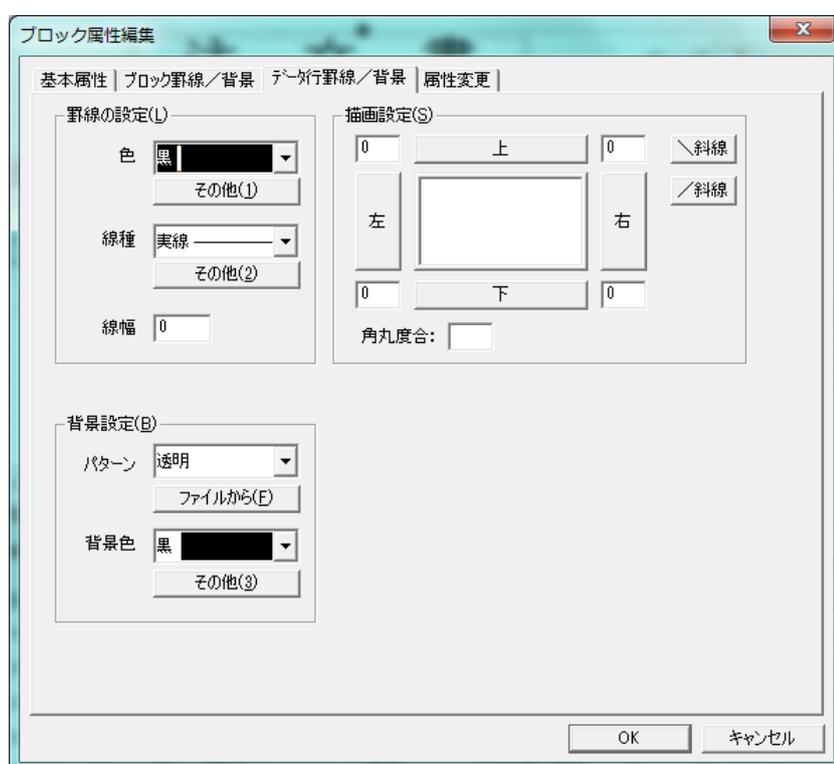
- 丸め度合い
ブロックの角を丸める場合に数値を指定します。[丸め度合い属性の指定](#)を参照して下さい。

7.21.3. 『データ行罫線／背景』タブ

データブロックの各行の罫線、背景、角の丸め度合い設定を行います。

※この画面の操作手順については、[『ブロック罫線／背景』タブ](#)を参照して下さい。行間罫線ボタンが無い事を除いて同じです。

- 画面イメージ

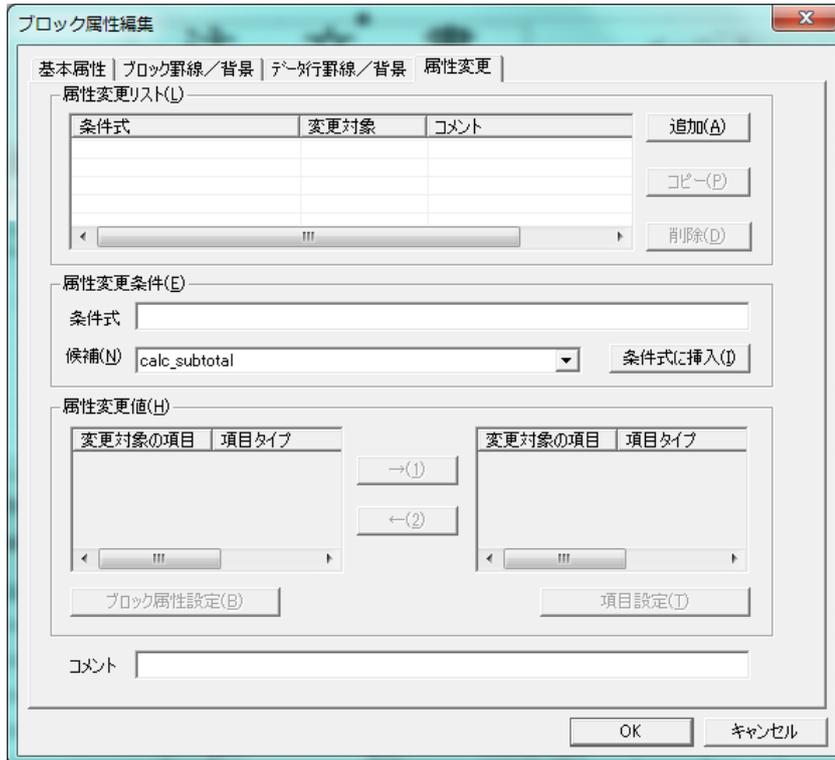


7.21.4. 『属性変更』タブ

ある特定の条件の時にブロック内の特定の項目の属性を変更する場合の設定を行います。

一覧の編集の基本操作については、[一覧形式画面の基本操作](#)を参照して下さい。

- 画面イメージ



- 属性変更リスト

- 一覧

設定済みの属性変更設定の一覧が表示されます。

- 追加

最後に新規に行が追加されます。

- コピー

一覧中の選択済みの行が、コピーされ最後に追加されます。

- 削除

一覧中の選択済みの行を削除します。

- 属性変更条件

- 条件式

条件式を入力します。候補のリストを選択し、「条件式に挿入」ボタンをクリックすると、条件式のカーソル位置に挿入されます。

- ・ 属性変更値
 - **ブロックの属性を変更する**

ブロックの属性を変更するには、"ブロック属性設定"ボタンをクリックします。
『ブロック属性編集』画面が開きます。この画面上で変更したい属性の変更後の値を指定します。詳細は、[『ブロック属性編集』画面\(複数\)](#)を参照して下さい。
 - **項目の属性を変更する**

項目の属性を変更するには、

 - ◇ 左側のリスト中の対象項目を選択し、"→"ボタンをクリックします。
 - ◇ "項目設定"ボタンをクリックします。

『項目属性編集』画面が開きます。この画面上で変更したい属性の変更後の値を指定します。詳細は、[『項目属性編集』画面\(複数\)](#)を参照して下さい。

7.22. 『ブロック属性編集』画面(複数)

※基本操作及び属性の説明については、『[ブロック属性編集](#)』画面を参照して下さい。ここでは複数のブロック属性をまとめて変更する方法について説明します。

- 基本操作

各属性を変更すると後述の各画面のイメージ内の赤で囲われた”変更する属性”部分内に対応するチェックボックスが自動的にチェックされます。

“OK”ボタンクリック時は、チェックされている属性のみが属性変更対象のブロックに対して反映されます。

- 『基本属性(複数)』タブの画面イメージ

- 『ブロック罫線／背景』タブの画面イメージ



- 『データ行罫線／背景』タブの画面イメージ

※この画面は対象となるブロックにデータブロックが含まれる場合のみ表示されます。



7.23. 線の属性指定

ブロックの罫線、項目の罫線等の共通の操作及び属性について説明します。

- 画面イメージ

罫線の設定(L)

色 黒 [その他(1)]

線種 実線 [その他(2)]

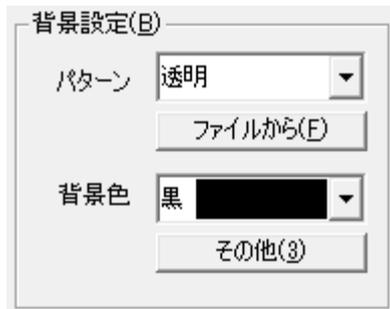
線幅 1.5

- 色**
一覧中の色を選択します。一覧に無い色を指定する場合は、"その他"ボタンをクリックします。一般的な色の指定ダイアログが開きます。
- 線種**
一覧中の線種を選択します。
- 線幅**
線幅を実数値で指定します。0が一番細い線になります。

7.24. 背景の属性指定

ブロックの背景、項目の背景の共通の操作及び属性について説明します。

- 画面イメージ



- パターン

一覧中のパターンを選択します。一覧の中の”色”を選択すると、背景色の選択が適用されます。一覧に無いパターンを指定する場合は、"ファイルから"ボタンをクリックし、ファイルダイアログ上で、BMP ファイルを指定します。指定した BMP の左上の 8x8 ドットが切り取られパターンとして使用されます。

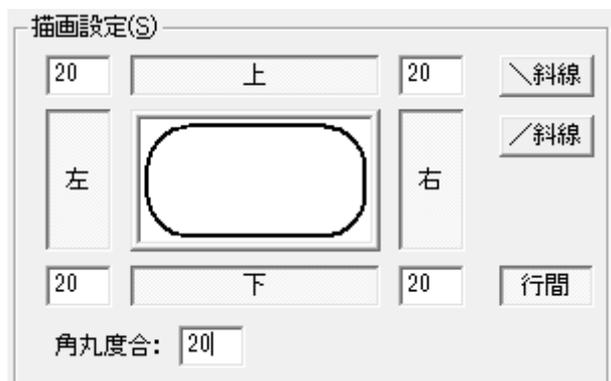
※パターンに色を付ける事はできません。色付きのパターンを指定する場合は、"ファイルから"ボタンを使用して色付きの BMP を指定して下さい。

- 背景色

一覧中の色を選択します。一覧に無い色を指定する場合は、"その他"ボタンをクリックします。一般的な色の指定ダイアログが開きます。

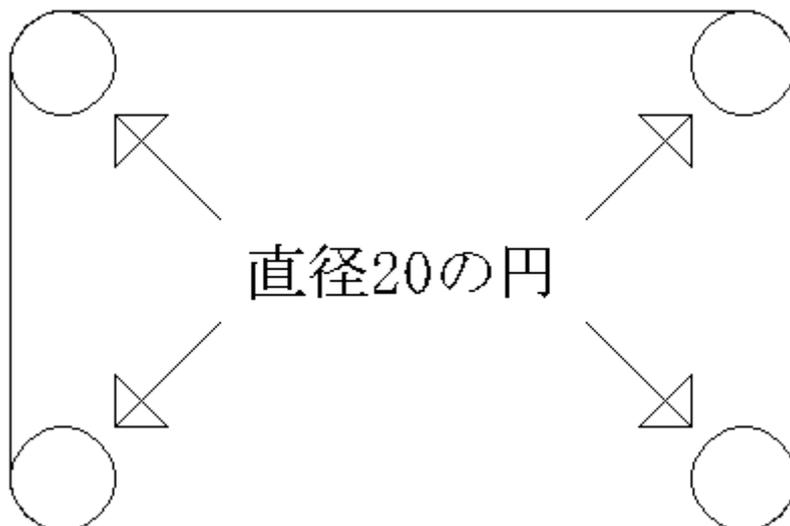
7.25. 丸め度合い属性の指定

ブロックの罫線、項目の罫線等の角の丸め度合いの属性について説明します。



角の丸め度合いの属性では、左上、右上、左下、右下のそれぞれの角の丸め度合いを、0 以上の数値(ポイント単位)で指定します。0 を指定した場合は、角丸めしません。値は、下の図の様に丸める角に重なる円の直径を指定します。

丸め度合いに 20 を指定した場合



8章. 変数及び関数

8.1. データ項目予約変数説明

IOBDOC では入力データとして、CSV データの様ないくつかのカラムを持つ行が連続しているデータをイメージしています。

データ項目変数は、この行内の 1 つのカラムを特定する為に使用します。表現形式は以下の通りです。

\$番号
\$番号.s

“\$”の後に 1 から始まるカラムの番号を付加して表現します。

またさらに“.s”を付加すると、数値としてのデータではなく文字列として解釈されます。

[計算式での使用例]

計算式	説明
\$1 * 2	1 目目のカラムのデータを 2 倍した値
[" + \$1.s + "]"	1 目目のカラムのデータを文字列として扱い"[]"で囲む

8.2. 予約変数一覧

IOBDOC で使用できる予約変数について記述します。

NO	名前	説明
1	\$pagecur	現在のページのページ番号が格納されています。
2	\$pageall	2 回目で処理時に総ページ数が格納されます。
3	\$rowcur	現在のデータ行の行番号が格納されています。
4	\$rowpagecur	ページ内のデータ行の行番号が格納されています。
5	\$rowpageall	ページ内のデータの行数が格納されています。
6	\$timestart	処理を開始した時点の開始時刻と日付が格納されています。
7	\$timecur	現在の時刻と日付が格納されています。
8	\$ddlface	ddl ファイル名 (拡張子なし) が格納されています。
9	\$ddlfile	ddl ファイル名 (拡張子あり) が格納されています。
10	\$ddlfull	ddl フルパスファイル名が格納されています。
11	\$matrixno	データ部配置を使用した場合のマトリクス位置番号が、格納されています。

8.3. 関数一覧

IOBDOC の条件式中で使用できる関数について記述します。

NO	名前	説明
1	int	実数値を整数値に変換します。
2	strbytecount	文字列のバイト数を計算します。
3	strcharcount	文字列の文字数を計算します。
4	strtoupper	文字列中の半角英小文字を大文字に変換します。
5	strtolower	文字列中の半角英大文字を小文字に変換します。
6	strleft	文字列の左(先頭)を切り取ります。
7	strright	文字列の右(後ろ)を切り取ります。
8	strtrim	文字列の左右(先頭と最後)の文字を削除します。
9	strrtrim	文字列の右(後ろ)の文字を削除します。
10	strltrim	文字列の左(先頭)の文字を削除します。
11	strisequal	文字列の比較を行います。
12	strtoken	指定区切り文字での項目を取り出します。
13	toval	文字列を実数値に変換します。
14	tostr	実数値を文字列に変換します。

8.3.1. 関数詳細

- **int**

[形式]

int(実数値)

[説明]

実数値を整数値に変換します。

[戻り値]

整数値

- **strbytecount**

[形式]

strbytecount(文字列)

[説明]

文字列のバイト数を計算します。

[戻り値]

整数値

- **strcharcount**

[形式]

strcharcount(文字列)

[説明]

文字列の文字数を計算します。

[戻り値]

整数値

- **strtoupper**

[形式]

strtoupper(文字列)

[説明]

文字列中の半角英小文字を大文字に変換します。

[戻り値]

変換後の文字列

- **strtolower**

[形式]

strtolower(文字列)

[説明]

文字列中の半角英大文字を小文字に変換します。

[戻り値]

変換後の文字列

- **strleft**

[形式]

strleft(文字列,文字数)

[説明]

文字列の左(先頭)を切り取ります。文字列が、指定文字数を満たしていない場合は、存在する文字だけを切り取ります。

[戻り値]

切り取った文字列

- **strright**

[形式]

strright(文字列,文字数)

[説明]

文字列の右(後ろ)を切り取ります。文字列が、指定文字数を満たしていない場合は、存在する文字だけを切り取ります。

[戻り値]

切り取った文字列

- **strtrim**

[形式 1]

strtrim(文字列,削除する文字(列))

[形式 2]

strtrim(文字列,0)

[説明]

文字列の左右(先頭と最後)の連続する半角文字を削除します。形式 1 では、削除する文字を文字列で指定します。形式 2 では、スペースを削除します。

[戻り値]

削除後の文字列

- **strrtrim**

[形式 1]

strrtrim(文字列,削除する文字(列))

[形式 2]

strrtrim(文字列,0)

[説明]

文字列の右(後ろ)の連続する半角文字を削除します。
形式 1 では、削除する文字を文字列で指定します。形式 2 では、スペースを削除します。

[戻り値]

削除後の文字列

- **strltrim**

[形式 1]

strltrim(文字列,削除する文字(列))

[形式 2]

strltrim(文字列,0)

[説明]

文字列の左(先頭)の連続する半角文字を削除します。

形式 1 では、削除する文字を文字列で指定します。形式 2 では、スペースを削除します。

[戻り値]

削除後の文字列

- **strisequal**

[形式 1]

strisequal(文字列 1,文字列 2)

[形式 2]

strisequal(文字列 1,文字列 2,true)

[形式 3]

strisequal(文字列 1,文字列 2,false)

[説明]

文字列の比較を行います。形式 1 では、大文字小文字を区別しません。

形式 2 では、大文字小文字を区別します。

形式 3 では、大文字小文字を区別しません。

[戻り値]

1: 文字列が同じ

0: 文字列が同じでない

- **strtoken**

[形式]

strtoken(文字列,区切り文字(列),番号)

[説明]

指定区切り文字での指定番号番目(1 始まり)の項目を取り出します。

番号が範囲外の場合はエラーとなります。

[戻り値]

指定項目の取り出した文字列

- **toval**

[形式]

toval(文字列)

[説明]

文字列を実数値に変換します。文字列が数値を表していない場合は 0 となります。

[戻り値]

実数値

- **tostr**

[形式]

tostr(実数値)

[説明]

実数値を文字列に変換します。データ項目変数を文字列に変換する場合は、".s"形式を使用して下さい。

[戻り値]

文字列

9章. 整合性テストエラー一覧

※XXX の部分は状況により内容が異なります。

No	メッセージ
	対処
E601	ブレイク『XXX』の条件式で使用されている、ブレイク詳細設定『XXX』が存在しません。
	ブレイク設定の条件文から、存在しないブレイク詳細設定名の参照を削除するか、該当する名前のブレイク詳細設定を作成して下さい。
E602	計算式『XXX』で、同じ名前の変数『XXX』が参照されています。
	計算式の中で、同じ計算式を参照している為無限ループする可能性があります。同じ計算式の参照を削除して下さい。
E603	計算式『XXX』で使用されている、変数『XXX』が見つかりません。
	該当する変数を作成するか、変数への参照を計算式から削除して下さい。
E604	ブレイク『XXX』の条件式で文法エラーを検出しました。【『XXX』】
	ブレイクの条件式を確認して下さい。
E605	データ数が不正です。
	データ設定を確認して下さい。
E606	名前の無いブロック『XXX』が存在します。
	ブロック名を確認して下さい。
E607	同じ名前のブロック『XXX』が存在します。
	各ブロックに別の名前を付けて下さい。
E608	データブロックが複数存在します。
	データブロックは一つしか作成できません。データブロックを削除して下さい。
E609	見出しブロックが複数存在します。
	見出しブロックは一つしか作成できません。見出しブロックを削除して下さい。
E610	名前の無い項目『XXX』がブロック『XXX(XXX)』内に存在します。
	項目名を確認して下さい。
E611	同じ名前の項目『XXX』がブロック『XXX(XXX)』内に存在します。
	各項目に別の名前を付けて下さい。
E612	名前の無いブレイク詳細設定が存在します。
	ブレイク詳細設定名を確認して下さい。
E613	同じ名前のブレイク詳細設定『XXX』が存在します。
	各ブレイク詳細設定に別の名前を付けて下さい。
E614	名前の無いブレイク設定『XXX』が存在します。

	ブレイク設定名を確認して下さい。
E615	同じ名前のブレイク設定『XXX』が存在します。
	各ブレイク設定に別の名前を付けて下さい。
E616	名前の無い計算式設定『XXX』が存在します。
	計算式設定名を確認して下さい。
E617	同じ名前の計算式設定『XXX』が存在します。
	各計算式設定に別の名前を付けて下さい。
E618	名前の無い演算設定『XXX』が存在します。
	演算設定名を確認して下さい。
E619	同じ名前の演算設定『XXX』が存在します。
	各演算設定に別の名前を付けて下さい。
E620	名前の無い外部変数設定『XXX』が存在します。
	外部変数設定名を確認して下さい。
E621	同じ名前の外部変数設定『XXX』が存在します。
	各外部変数に別の名前を付けて下さい。
E622	ブロック『XXX』の項目『XXX』が参照しているデータ項目変数『XXX』が見つかりません。
	データ設定を確認してデータの数を増やすまたは、正しいデータ項目変数を再度指定して下さい。
E625	ブロック『XXX』の項目『XXX』が参照している予約変数『XXX』が見つかりません。
	正しい予約変数名を指定するか、参照を削除して下さい。
E626	ブロック『XXX』の項目『XXX』が参照している演算変数『XXX』が見つかりません。
	参照先の演算変数を作成するか、正しい演算変数名を参照する様に修正して下さい。
E627	ブロック『XXX』の項目『XXX』が参照している計算式変数『XXX』が見つかりません。
	参照先の計算式変数を作成するか、正しい計算式変数名を参照する様に修正して下さい。
E628	ブロック『XXX』の項目『XXX』が参照している外部変数『XXX』が見つかりません。
	参照先の外部変数を作成するか、正しい外部変数名を参照する様に修正して下さい。
E629	データブロック『XXX』に設定されているブレイクのブレイク条件名が指定されていません。
	正しいブレイク条件名を指定して下さい。
E630	データブロック『XXX』に設定されているブレイク条件『XXX』が存在しません。
	参照先のブレイク条件を作成するか、正しいブレイク条件名を参照する様に修正して下さい。
E631	データブロック『XXX』に設定されているブレイクの出力ブロック『XXX』が存在しません。
	参照先の出力ブロックを作成するか、正しい出力ブロックを参照する様に修正して下さい。
E632	ブレイク設定『XXX』の条件式が指定されていません。
	ブレイク設定を確認して、正しい条件式を指定して下さい。
E633	計算式『XXX』の計算式が設定されていません。

	計算式設定を確認して、正しい計算式を指定して下さい。
E635	条件が指定されていないデータ加工設定が存在します。
	データ加工設定を確認して、正しい条件式を指定して下さい。
E636	データ加工設定で、使用されている変数『XXX』が見つかりません。
	参照先の変数を作成するか、条件式中の参照を削除して下さい。
E637	ブロック『XXX』の属性変更設定で、使用されている変数『XXX』が見つかりません。
	参照先の変数を作成するか、条件式中の参照を削除して下さい。
E638	ブロック『XXX』の属性変更設定で指定されている項目『XXX』がブロック内に存在しません。
	参照先の項目名と同じ名前の項目を作成するか、参照を削除して下さい。
E639	計算式『XXX』で文法エラーを検出しました。『XXX』
	計算式を確認して下さい。
E640	データ加工の条件式で文法エラーを検出しました。『XXX』
	データ加工の条件式を確認して下さい。
E641	属性変更の条件式で文法エラーを検出しました。『XXX』
	属性変更の条件式を確認して下さい。
E642	ブレイク単位の演算『XXX』にブレイク名がありません。
	対象となるブレイクを作成し、ブレイク単位の演算設定箇所指定して下さい。
E643	ブレイク単位の演算『XXX』の対象ブレイク『XXX』が存在しません。
	対象となるブレイクを作成し、ブレイク単位の演算設定箇所指定して下さい。
E644	ブレイク条件『XXX』に関数は使用できません。
	ブレイク条件に、関数は使用できません。ブレイク条件を修正して下さい。
E699	その他のエラー
	メッセージに従い対処して下さい。

以上